836
209
3

芳草年録

鬼報録

九十三

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

七冊之内 二重役 久代助右ヶ門書

大高藩 總政 御使高

鬼報録第六輯

慶応四年戊辰閏四月

目録

一 闕記 自閏四月八日 至同十二日

二 北越探索説

三 飯山侯御届書

四 太政官ヨリ賊徒敗走御届書

五 高田藩届書寫 附 賊ノ之證書

六 同上再度御届書 附 補調書

七 荒井問答記 閏四月八日

八 閏四月八日荒井舎記出席姓名

九 荒井発状紙

十 舎藩迴状

十一 陸軍方ヨリ舎藩ヘ高田近人呈先鋒 閏四月八日

十二 南記

十三 高田藩答書 五月二日

十四 同上御不審ノ箇人数ヲ指委ヌ又御疵数届

十五 同上御不審ノ箇條願書

十六 高田藩總督ヨリ御通寫

十七 同上重役久代助右ヘノ贈書

大正 9. 5. 27 購求

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

十九 紀聞 壬月十三日 至同十七日

二〇 尾州藩田宮如雲ノ来書 壬月十五日

二一 又 閏月十七日夜

二二 武敏手簡抄 壬月十日大激浪ニ会ス

二三 上田領塩尻原ニテ衛門生ノ救後探索 壬月二日

二四 従荒井宮渡辺左氏所書送両道進軍部分

二五 閏月廿三日所聞

二六 在京鏡伍長某書柬 壬月二日

二七 同上高塵外翁ノ書 同

二八 鑑軍ノ大垣吉川彦七郎ノ書翰

二九 原良平探索書抄

三〇 武敏閏月廿三夜大激浪ニ打砕舟漂着ノ事 廿六日ノ達

三一 聞記 自壬月廿四日 至同月廿九日

三二 行軍林示令 壬月廿二日所出

三三 尾州飛脚話 甲州ノ義出越後ニ零戦

三四 越後草莽ノ有志大浮屠ノ賜

三五 自然稲説

三六 藏田桁田大給話

三七 同上領第一戦紀ノ ※月廿七日所ノ附図一葉

三八 同上官軍ノ埴

三九 武敏閏月廿五日越後十日町陣営ノ条書 廿日ノ達

四〇 飯島永手簡 壬月十一日付

四一 又 閏月十八日

四二 又 閏月廿四日

四三 高田侯御直書藩士所示

四四 紀聞 壬月九一二日

四五 飯山藩鈴木傳左申通

四六 閏月廿三日久保五郎北越千手陣ノ書面又ノ

四七 武敏自大激浪陣迎ノ 閏月十九日廿二日晩達

四八 北越事情

四九 会藩事情 諏訪小鳩ヲ右申口

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

一

一閏記 自閏月八日
至十一日

閏月八日九ツ頃黄昏陣中が騒ぐゆゑ福寺村之者活初ゆゑ敵ニ
ゐるゆゑ一ツ鉄砲ニて打ち七ツ玉ニて打ち返さるゝ大日方後ゟ率ゐ双銃之運夫
ニ元られタリ十一日ニ朝飯焚て後りを飯山へ二の字ニテ立ち夜通し彼船ゟ
到ぶ後水ニ沿て男川ニ到れバ飯山ニ戦ふにやとて係ニ右ニ山へ掩ふ
ニ云ニ軈ふ之得ゟ候ニ抔前案ニ早くふ引バ計後抔感ニゟ是迄二夜不眠
我人疲労ゐゟニ一挺七人ニゟ云ニ云ふく捕上ケ社有れ本ニ男ハ村ニ抔ニ
夜今ニ敗軍ニ暇あらバ人ニ近来ゟ一の砲手ニテ待ニ居ニテ後ゟ追ニゟれ
山ニ抔ニ入ニ人数ニゟサテ社ニ見れバ御敗ニ行ゟ抔之ニ多ニ早くニ手も係ニ
二の来ニ云ニ逃ゟゐニカニ好ゟゟ山ゟ下ゟ男ニ陸ニ船ニ西岸ニ在テ居ゟ
彼ニ後れニゟ一ニ夕ゟ飯山ニ到ゐ内ニ是ハ先鋒ハ既ニ男ニ陸ゐ後ゟ事始

の我ら不知しも好奇の心を以て一の事ハ人のこ見定やハ川左の本落く多方ヤ
さる事ゆゑつゐにへし吐手淳ものく山田大笠ヶ城石ら説て今夜ハ汁を

一 荒井ハ行時領山ゟそこゟ郎尻ニ宮又子供
ゟしやと寝ハ悦四ゟん山田銭弥ニ四三ニ
冷飯弁当ゟて美濃ハ啊ゟ通今夜ハ政
ゟり事ゟ石ハ曽ゟ新ゟしハゟ七郎ハ
ゟ

一 弥実山宮つゟ成宮ゟの手燈ゟ
ゟ弁ゟゟ通ゟ事ゟ
ゟ又ゟの事ゟ弁ゟ会ゟ英智ゟ

一 ゟゟ山石為ハ娘作ゟ利智ゟ
今夜ゟ好ゟハ多ハゟ

十七年ハ内務省ハ警視庁ハ東京ハ
必ず我ゟ為ゟん事有我ハゟ事ゟゟゟ
先帝北陸道ゟ幸親兵ゟ率ゟ長人
府ゟりし当年迄ゟ多ハ事ハ内ハ望ゟ我ハ
ハゟ我ゟ七ゟ和山住ハ思ハ弁ハ我ハゟ
ゟ人住ハ刃ゟ桐ゟ不見ハ報ハ第ハハ
見ゟ称ハハゟめゟ但報ゟ高ハみゟてハ桐ハ当ゟ改ハ

又或人長ゟ人ハ十役ハ見ゟ為ハ路七ハ指ハ当
ハ後ハ倒て性来ハハ越ゟる傷ゟ宝珍ゟ子ゟハゟゟ又ゟ当ハ改
又教法ハ式ゟ銭所ハ辛ゟ率ハ山ハ所ハて主ハ事報ゟ岩亀ゟ眠ハゟる
ゟ実ハ教ゟしゟや否や直ハ他所ハゟ又ゟ当ハ警ハ谷ゟ落ゟ近上

今之俗、甘餐又如今ニして不得て棄し信れ者を置事も新ん都ならしい宝

一 或人生前ニ支説今世ニ事ニ人別ニ　トかニ一品ら物り新写ら面和ニ事ニ芸術ニ祈ら
ら礼ん　ニ味ニ出ら下ニ、元ニ宝ニ事ニ若物面まニら存れん　ニ事ニ立ら遊やら学ニ立ら
一 無名ら物ニ名ら吟ニ事ら刻ら彩ニ私ニ仕の物ニて　ニ立ニ礼ニ仕ニ友ニ
ニ行ニ仕ニ仕ニ仕

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

月九日

芸州第一番大砲仮山道二ヶ所ヘ分ケ備ル

一 右四本打方多挺の External 方ヘ五石ノ弾丸ヲ込ル時ハ二十丁程ヲ飛ス

一 三百目玉ノ大筒ヲ仮ニ十挺ヲ備ル時ハ二十町程ヲ飛ス

ハフ陣ニ備ル時ハ二町ヲ出ス

一 前記ノ通リ御手当無之候

竹田小屋

金井鍬吉郎
山崎善之進
翼原周蔵
男兵十人

繰出

大砲二挺

本田小屋

金井鍬吉郎
翼原周蔵
男兵十人

大砲二挺

右ノ外ニ新ニ御手当ヲ以テ備ル大砲ハ竹田小屋ヘ行ク

右ノ通リ人数ヲ以テ御固メ被成候ヘ共、敵ノ人数ヲ不知内ハ、御手当ノ大砲ヲ繰出シ候事不相成候

繰出

竹田小屋ヨリ

板垣伴人
野村栄吉
岡崎文次
男兵五人

大砲口

本田小屋ヨリ

板垣伴人
野村栄吉
男兵五人

大砲二挺

地を守ること

一 一昨十七日出久三俣小屋ヘ金穀ヲ送リ行ントセシ役ニ、已前ヨリ万一近ク城ヘ襲ヒ

日ニ石ヲ

一 或人説猟銃ヲ以テ当時人毎ニ多数ヲ討ル事ハ（毎十日ニ斃ル一ニ）

一 近年ヨリ多ク鉄砲子ト云物ヲ以テ二三里ノ遠キヲモ打ツト云ヘリ

ソレヲ為ノ防ノ為ニ小屋ノ廻リニ竹ヲ植ル事ヲ聞ケリ

一 物ニ依リ山ノ表ハ平地ニ成ル所ヲ見ル時ハ、ソコヘ大筒ヲ以テ石弾ヲ打ツケル事ヲ聞ケリ

武政一所好日記第四月二日ノ條ニ昨夜高田表ヨリ北国通ヘ出ル智恵伊候鉄砲百挺ニ新手ノ

（昨今新七発）

丹ヲ為ス止引候由ニ候ヘ共、此也ハ近ク御手当ヲ以テ取ル事ニ候

一 山村勢ハ引揚ノ一昨日ノ三叉ヨリ御手当ヲ引ニ引揚候事ニ如ク

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

北北方向に帝達に向て侵入時に張ると称する将来なり

一 七日暁八時係に横井小大進に行り止メ北大滝に行て成るべく多くの水を取り溜めんとて右山等当地に在て取り溜めの後を為すべし 土人時に追縋ると雖も侵入し時に追縋ることを得ず 但し侵入し時に追縋ることを得ざるも水を取り溜めの意堅く為すべし

一 屋久成敗に付二家族脱走人これあり引取方の儀に付 鹿山大兵衛より通牒書の通り進入の節より九州より来る使者の取扱方に付 其筋近藤重蔵より藤行寺へ掛合の趣 其筋より藤行寺へ掛合の趣 其筋より藤行寺へ掛合の趣 其筋

十月十一日

一 山熊を結再修写 飯山在勤る時所々件候兵をもち高方の和尚に修さ修又写さ写をさ
十ぐ〻光憚ら橋ぎれ故め程飛く吸さるるらん法時ぐる有ら
如此報ハ吸さるめらート伊行ぎんぐら

一 飯山城二九男候ニ白石さ此ぎく吸ぎ醒さ
電共ぎる、法ぎ吸下ぎく下ぎ一席、行ぎぐ
修の当到屋ぎ程ノ法秀の往在ぐ事の称ぎ
修ぐ下ぎ紅ぎる吸ぎ下ぎ君候し学ぎ次法修
そ三ノ下ぎハぐの元返矢ホ法堂茶紙屋ぐて子新ぐ日任ノ詞伊えんテミル
修当到屋ぎ待ぎ下ぎへも出ぎる下ぎホ子ぐ
しぎ法ぐる止下ぐ吉ぎ愛ホ新ぐ吸ぎ修ぎホ下ぎ

我報之人幸莊

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

と眠を俟し玉之神大十旧い弔活ろる事ケ玉来は奥ケて中五ろて
三向ト茶釜屋ハ日ろ釜屋ろしさ化ま吃ろ我供釜ろ一ろ弔ケて
所ケろんや化ト在ろんやさ我火苦義ケ系ハ別ト吃ろれ仕ろれら
一 中弔丸ハ所守ろ三ノ丸ハ先住
士住取ハ等ろし中所ケめハ在ロこ玉ろ玉ろんよし
一 戦ハ在ロ来ハ為ケ兵在国し城下近ハ三ケ
所方ろ皆ろ寿数ケ白系拘ケ男子ハ降抜ケれ帰めホ
ト城内手ノ初ケ挽米ハスルよト子供
ろ玉ケ哀初ろ多ハ感心ケろよし
一 城内実為ろ士卒降ケ処ケ兵ケ九寝し刻ケれ豊漱ケれちト
屋敷ハ生捕ろ十仏ケ玉ろ手ロこ拓ろ下ろ衣服

と綜列表して梅ト称服ケ吾ろろケ今ハ郎ろ玉ろ
一 白仁三千ろ物ハ玉ろ弁一所ハ号吾ろ皆籠亭ト為し夜茶を玉て朴手ろ拘て
茶ろ呼旦仁州敗ハ通ケ急此辺、向ケろて魚飽酒ハ辞ハ還ハ寺ケ軍装ろ
已白衣ろ多日ろ所大谷ノ川ケ場ハ城ろ囲ハ夜ろろ云ハ云
此多勢ケ敵陣ろ割ろ玉ろ通ろ向ハ所ケ軍ろ布営しろ向ハ仮ケ亜
せろやろ向ろろ多ろくハ此ノ拒者拒ハろ心ハし玉宮ろへし菊名拿行ケ官軍威
武ケ振ハ敗ケ敵ろ新定ろ此ケ多ハ在他連ケ玉ろし那ケ軍ケ玉ろ又連ケ振ろし
力ケろ多ハ手ケ多ろ新ケ十ケ向ハ病ケ聚ハ所係不ろ
白祝賀等向ケろ手ケ玉ろ向ハ廊ケ玉先ケ鉄ハし手ケ事ケ十ケ惜ろ事ハ手ケ来ケ行ケ
後スルろケ玉ケ十ケ今ハ夏ケろ多ろろ新ケ永手ケ修ケ猛性向ハ一ケ振ろく
一 山ケ称ろ玉ケ差ケ多ろ向ハ向ハ入ケ中ケ野名先ケ玉ケ行ろろケ吟連ケ白ケろろケ玉ろ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

一 宝月十日屋ヶ百十ヶ存ヶ行ヶ如ヶ大金ヶ拵ヶ
銀ヶ者ヶ来ヶ〻ヶ有ヶ〻ヶ一ヶ次ヶ天ヶ施ヶ元ヶ太ヶ〻ヶ来ヶ細ヶ者ヶ北ヶ辺ヶ来ヶ紙ヶ形ヶ〻ヶ如
出ヶ申ヶ〻ヶ云ヶ〻ヶ有ヶ〻ヶ文ヶ杖ヶ紙ヶ張ヶ者ヶ〻ヶ見ヶ〻ヶ思ヶ〻ヶ事ヶ〻ヶ如ヶ方ヶ今ヶ如ヶ実ヶ者
実ヶ如ヶ杖ヶ一ヶ天ヶ云ヶ双ヶ施ヶ七ヶ又ヶ〻ヶ接ヶ七ヶ又ヶ〻ヶ目ヶ〻ヶ傷ヶ〻ヶ者ヶ屋ヶ〻ヶ〻ヶ〻

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

…御座候ゝ…しく…後…同等…て…
…近ゝ…一手…今朝……
…ル……後…天竺…ゝ…
…水を……ハ……の…天…ハ…の…
一…等分……ゝ…ハ…大…
…勤…を…ゝ…我…
…ゝ…ゝ…ゝ…ゝ…ゝ…
…ゝ…ゝ…ゝ…ゝ…ゝ…
…ゝ…ゝ…ゝ…ゝ…ゝ…
…ゝ…ゝ…ゝ…ゝ…ゝ…
…ゝ…ゝ…ゝ…ゝ…ゝ…
…ゝ…ゝ…ゝ…ゝ…ゝ…

北越探索ノ説

一 四月廿六日夕時浪士七人…ま分頃早馬ニて四人高田村家数…有之…等…
…ゝ…陣屋…有之…陣屋…ゝ…
…ゝ…ハ…ゝ…ゝ…ゝ…ゝ…
…ゝ…ゝ

之十 右ニ準ス 一

(三)飯山侯御届書 太政官日誌第十五号ニ載ス

当月廿一日夕刻東照宮ヲ奉始大小四百人程越後国ヨリ御領分高倉峠ヲ相越候ニ付城下ヘ押入候ニ付テハ同廿二日右四百人ヲ城下ヨリ二里ノ所新井宿ヨリ廿三度ニ分ケ又ハ五十人位宛本城下上町真宗古刹寺院ヘ屯集罷在候ニ付家老及病人ノ所ハ格別其余ハ一軒ニ十人宛割合ヲ以テ分宿申付置候処、右ハ会津ヘ加勢ノ為メ越後表ヘ出張ノ趣ニ付兼テ心配致シ居候処、案ニ相違シ其姿モ不相見候ニ付、依テ兼テ申合セノ通リ御届申上候処、何分小藩ニテ義ヲ不仕候テハ不相済ニ付、当月廿四日信濃坂城ヲ進発当月廿七日信州海野宿ニ於テ薩兵之儀早々申遣専防衛ヲ術苦心罷在候ニ付右ノ段早速御届申上候処、漸ク其筋ヨリ御届ニ相成候旨ニ付、此段モ御届申上候以上

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

引き和歌山に乱入仍て悉く松代而已人数為援兵千曲川向
岸安田村辺迄追到着候に依て賊徒共真宗寺より右川辺迄繰出し川を隔て
信濃守人数と砲戦仕候内同人数より人数上流櫻巻と申す所より繰
入数ヶ所四ヶ所に打出し双方より烈敷打懸候に付賊兵直様敗走
攻寄ちらし城内より繰砲数十挺打懸候に付賊兵四五十人程死傷有之
得共於又人数を集地面より攻懸候に付是迄の手揃尾州松代両人数を一
同に追撃仕候に付賊兵引揚富岩峠より敗走
跡を付て後両日中人数悉く集候に付今日六ツ半朝より
行又松代并笠原人数富岩近辺迄追討出発仕候に付右に記し候双方の討
死并手負細書調え上申候間此段申上候以上

四月廿六日

本多豊後守

○大政官日誌第十五出

大政官より賊徒敗走の御届写

信濃守儀去月廿八日御届申上候通東北へ走り賊徒
引連敗後国より信濃国へ侵入本多豊後守在所飯山城下へ押
来同所を焼集近辺へ出没致候に付信濃守人数追々出張其後時機見計ひ同月廿四日尾州美濃
千曲川東西持口分配仕同廿五日早天信濃守先陣人数尾州美濃一同右
川より東山岸安田渡船場より押進み則刻より時過頃西岸に在る賊徒へ
発砲致候に付信濃守人数不取敢及砲撃賊兵共数退の処四ツ時頃より
飯山城へ使者差越候に付信濃守人数尾州美濃の両手揃
勿行届候間早々引揚候様申談候に付夫々引揚申候
又発砲賊徒共打揃の上信濃守人数其機に乗じ乱入し敗走せ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

(五) 高田藩届書写

初度兵隊古屋佐久ニ於テ其外役々兵隊共去十六日敵後ロ柏崎ヨリ
ニ信濃国松本迫先鉾到来引続佐久ニ於テ兵隊共凡人数弐千七拾人余式部
大輔領分通行ニ付趣意柄相尋ニ処先般信濃
佐久ニ於テ人民難渋不可言筑官所ホ人ヲ如ク恐怖動揺之趣相聞ニ付鎮撫
付兵隊引續当役致処
勅使ハ先鋒追々下向之趣ニ付御通行筋之儀ニ付御意之趣ニ付
何モ之兵艾不相知不意ニ襲来ニ兵有之趣ニ付御意之趣ニ付
砲撃ハ有之候ハヽ防戦ニ致シ候得共元来真ニ奉対
官軍敵対ニ致ス存念毛頭無之候
右ノ次第ニ付速ニ人数相纏引退申候迫段ニ通行
有之候ハヽ右場所近下先相敷度且深田表ニ事情信州ニ
致シ申上度之旨ヲ高田藩ハ
御通ニ相成ル様ニ仕度ニ付御通ニ相成ル様ニ仕度ニ付御通ニ相成ル様ニ仕度ニ付

湯ヶ原今般脱走人ども之内共若不都合之次第ハ有之候ハヽ其節入牢申付若留置慶置方御伺一ノ中心得之精ヶ及談判宿規後追領分新井宿ニ留置ハ之評定致ハ処去ル廿日頃一應之断ハ参ル遠運動杯と唱ひ俄ニ信州飯山表ニ立越ハ有之約定違変之所業致談判ハ如彼号行違相成ヶ訳ハ参ル深ク相詰隊長古屋佐久左衛門初諸隊引度ハ湯ヶ原一旦立越ハ後ニ有隊中之者共々飯山表ニ残ハ置ハ旨有之元来是非共信州地近罷越度素ヶ願儀ニ有之候ハヽ何卒滞留不致致行通度旨ニ付奉命之廉有之ハ間何卒信州地迄罷越度切論乱暴之所業ハ決而致間敷中ニ條迚罷越役方ハ上申諭ヶ違ハ上引取度旨ヶ別紙写之通

証書受取通行為致ハ儀ニ付此段申上ハ

締致ハ粗暴之儀ハ決而不致ヶ歩兵共ヶ諸国寄集無頼之者共ニ付厳敷取

四月廿五日

右之通急使を以申陳道　御徒目付出張先ニ而届中上候儀ニ而座ハ此段申上ハ

尾州　杉本前庵殿
松代　小幡内膳殿

下札

尾州家役人衆ニ而ハ如沙汰之次第ニ有之候ハヽ

高田川上藤太夫　側用人
瀧見久郎兵衛　中老
竹田基次郎　家老

此段ヲ作ラン次第ニ候 銀山ノ河合ヨリ処ニ回日使者ヲ着中述ル所ノ後人方ヨリ歩兵ヲ是非中那ノ辺ニ通度ヲ中聞ルハ各ヨリ一ノ通若ヲ寺辺ヨリ通ノ度旨中聞ルハ是亦一ノ相通旨沙汰之旅中述下ノ已ニ万ヲ一ヲ実ヒ中野ヨリ遣シ使者ヨリ役人衆ヨリ筆略ヲ為通ニ一ノ子ヨリ中聞ルノ事ニハ添ヲ之儀ヒルヨリ別紙回日使者ヲ述ル紙中聞ルハ

○賊名之證書

一 壮者ヲ先刃中信濃國鎮撫トシテ罷越ル申付諸江戸表ヨリ中山道上程ヲ途中 勅使先鋒追ヲ下向ヲ趣ニ承ルヨリ各ヲ芙ヲ順ヲ旨心ヲ背ヲ不相添候ヲ心得ルヨリ路次ヲ塞シ上加没田宿、一宿仕罷在ル処翌暁不意ヲ襲来ヲ兵有ヲ撲殺追有何ノ礼ヲ人数且何ヲ為ヲ意ヲルヤ一應ヲ尋ヲ之ヲ者ヨリ答ヲ無ヲ発ヲ砲撃ヲ致ヲ不得止防戦ヲ上遂ヲ人数引纏ヲ於又ヲ路次ヲ迂廻シ駅ヲ通行初ヲ命ヲ比迄罷越ル処ヲ通行致ヲ又ヲ等ヲ毫ト上使ヲ旨疑不分明ヲ為ヲ一ノ事実ヲ書面ヲ以罷越ヲ届ヲ御手当ヲ御通ヲ等ヲ心上

柳山ヲ事 ㊞

天野新太郎 ㊞

四田永司 ㊞

歩兵ヲ同指図ヲ

今井信郎 ㊞

歩兵ヲ並

古屋作左ヲ ㊞

陣屋或郭大鞆様

御取事中

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

虚飾偽妄
更甚矣欤
歟誰子

六

見出し上ニ

再度 御届書

歩兵第古屋作左衛門領分通行方ヲ難未ヲ先般御廉申上置ノ次第ニ付今
四日十二日飯山表ニ於テ戦争有之候ニ付延引ヲ申上候処実ニ鐘室トシテ人数
差配仕ノ為御申出ヲ歩兵共追ヒ領分ニ出来ノ由申出ノ有之ヲ解ヲ訴訟ヲ上候処
有体ニ次第ヲ有之ヲ一歩モ領内ニ入ル義理ニ付不得其意不届ヲ
極ニ付一応詰問ヲ上討取可申ノ処家老村上ヲ始伊藤弥総竹田助太郎三隊ノ
人数追々揃ヒ上使ヲ以先ヲ及詰問ノ処隊長作左ヲ相答ヲ訴訟ノ次第
ヲ以名義ヲ動ヲ戦争ニ及ヒ候処ヲ素ヨリ戦争ヲ積ヲ衆右様ノ次第
栃ヲ相成得ヲ都合ヲ彼申訳ヲ為ノ領内ニ仍ヲ而日有ヲ延ノ処ニ仍ヲ
一時ヲ糺ノ談判モ為ヲ分不得止ノ義ヲ敵ヲ向ヒ都合ノ為早ヲ開通引取ノ一ノ家ヲ
容赦ヲ頼ヲ度旨ヲ以貴相談ノ申島鉉ヲ進平田ヲ矢ヲ木ヲ申付ノ為ヲ談ヲ訳ヲ
ヲ進ノ為ヲ文ヲ認ヲ敵ヲ陣前ニ相就ヲ管野辞申述ノ候申就ヲ候ノ処ヲ約定違変
ヲ以テ全ク商家ヲ相取ヲ不容易次第柄ヲ而已ヲ自然ヲ領内ヲ物騒ヲ兵器ヲ渉ヲ為ヲ
ヲ為ノ処ニ作左ノ始末ヲ謹慎ノ後
ヲ御処置相待ノ外ニ格別左ヲ之ヲ候ノ一切許容ヲ成候ノ間ヲ而延引
ヲ進ノ為ヲ文ヲ認ヲ敵ヲ陣前ニ相就ヲ候ノ処ヲ如鉉ヲ進ノ為ヲ文ヲ罷ヲ帰ヲ作左ヲ
再ノ討取ノ手間ヲ速ヲ攻ヲ申ヲ候ノ段ヲ申ヲ候ノ処ヲ如鉉ヲ進ノ為ヲ文ヲ二人ヲ差ヲ越ノ
つゐ申ヲ候ノ処ヲ答ヲ申ヲ候ヲ鉉ヲ進ノ為ヲ文ヲ書ヲ認ヲ差ヲ越ノ為ヲ
案ニ於テ校ヲ差ヲ追ヲ立人ヲ十人ヲ宛ヲ通ヲ為ヲ進ノ為ヲ候ヲ而申ヲ候ヲ
孜ヲ為ノ為ヲ配ヲ孜ヲ追ヲ陣ヲ屋ヲ方ヲ焼ヲ払ヲ陣ヲ屋ヲ方ヲ焼ヲ払ヲ陣ヲ屋ヲ方ヲ焼ヲ払

着申出有之候間、大小隊長ハ右ニ応じ速ニ集屯可相揃候、尤人数ハ
兵隊ハ勿論お雇ノ砲ノ者ニ至迄一人モ不残可相揃候、若病気ニ而
不参ノ者ハ其旨申出、村役人ニ而取調、病人ニ相違無之ハヽ、
其村役人ニ而代人差出可申候、尤人数ハ不残揃候迄ハ、
決而出発不致候、且又人数揃次第、大小隊長ハ勿論、
惣督ニ而も参謀ニ而も、其時々ニ応じ、
御指図ニ随ひ、速ニ出張可致候、
右之通急便を以申越候間、
御承知ニ而、
別紙壱通添
右之通ニ付、
御達申候、
以上
四月廿九日
関四郎
朝日
お三名
先
右ハ、
兵隊ハ勿論、
お雇ノ者ニ至迄、
一人モ不残、
揃次第、
出発可致候、
尤、
病気ニ而不参ノ者ハ、
其旨申出、
村役人ニ而、
代人差出可申候、
若、
病人ニ相違無之ハヽ、
其村役人ニ而、
代人差出可申候、
尤、
人数揃候迄ハ、
決而出発不致候、
且又、
人数揃次第、
大小隊長ハ勿論、
惣督ニ而も、
参謀ニ而も、
其時々ニ応じ、
御指図ニ随ひ、
速ニ出張可致候、
右之通急便を以申越候間、
御承知ニ而、
別紙壱通添
右ハ

右ハ本日追討業ニ着手ノ首数生捕自殺ノ
事実ヲ領ニ付上申ス以上

七 荒井問答 太公所命ヲ仗候藤田新太郎
藤田五月十日新井ヲ案ニ訪ノ問答ノ一件聆ヤ

一 閏月八日荒井ヲ監軍宿陣ヘ諭藩隊長ヲ含シ松本者庵ニ而ヨリ罰金ヲ
次第ヲ委細ニ述メ別ノ如ク仕テ千俵ヲ献ス旨証書ヲ以テ知会舎伐ヲ為ス而已ニ而事
ヲ訴ル不義ノ之ヲ許容ス之ヲ通ト雖モ罰軍ヨリ松本ヲ
訴ル事ヲ聞ス諭シ

服を無論通行を許さゝる事ゆへ傍らに居る諸同輩
股引袴着せ羽織ばかりを着て通行を致し岩村藩の人々も
いち早く察をとりて外して近生て如何者ぞ御尋ねに
依利之助の通行ハ名乗れとしかりつけるゆへ
我こそハと名乗れるとゝもに御下知ハ
じつとみて居たりしかバ故ハ何と
第一番ハ何ぞ一同ハ云ふ
ハ殿ハ先ハ
この有さまにしてハ
一聖九日高田中島を攻撃し薩兵銃を先ゝ
後ろ数人先陣ハ
支度を為して
ゐる中高田人不肖
ゐる
本者庵ハ
ハ
一中高田
ハ

ゐるゝ
私云ふ
タルナルニ
を詰問し
ゐる
ハ
ハ
ハ

一

今春江戸表を立て未今日迄始末相整ひ候中為云其ハ今春横濱ニ在てはゞり多和ハ不
存候古屋伝之助ハ西洋銃ニ銃ニ修て命を受ニ付一同三月初ハ皆々ニ
頃東ハ道ハ錦旗使ニ向ニ中ニ有て元ハ古屋ニ敵対ニ在ニ候ニ敗走ト雖て猶て
方面行ニ処ハ有ニ而ハ夜一隊ノ人数押来ニ候ニ付ニ一同ニ而ハ
ニ而已ニ和実戦ト相成ニ候ニ而ハ其ニ而ハ好ニ戦ニ又同所ニ而ハ
諸ニ藩ニ敵ト云ニ中ニ字郡ニ而ハ人ニ而ハ斬ニ而ハ和尚ニ而ハ
為ニ候ニ而ハ通ニ中ニ有ニ而ハ某ホ一ニ而ハ倫ニ而ハ
被ニ撃殺候ニ付ニ君ニ候ニ而ハ偶然ニ而ハ逃ニ候ニ而ハ
古屋松田ハ第一大隊ニ而ハ二千ニ而ハ陸手ニ而ハ某今井信郎内田庄司ハ第二大隊ニ而ハ
ニ而ハ進ニ而ハ処陸手ニ而ハ多ニ而ハ後ニ而ハ報ニ而ハ後ニ而ハ
金ニ而ハ出ニ而ハ候ニ而ハ有古屋ニ而ハ大設備ニ而ハ及ニ而ハ通候得ハ
ニ而ハ候ニ而ハ今井ハ撃候ニ而ハ又陸手ニ而ハ
世話ニ而ハ候ニ而ハ為中ニ而ハ
候ニ而ハ体ニ而ハ
錦山ニ而ハ迫ニ而ハ
金有ニ而ハ
ニ而ハ
錦山ニ而ハ迫ニ而ハ

元今井信郎内田庄司ハ松田昌
之助等ハ人数有ニ而ハ

(八)

辰閏四月八日於敵後芸州再寇東山道指督陣營会議出席者姓名

総督	有栖川宮熾仁親王	監軍某
参謀	木梨精一郎	
同	伊地知正治	
同	黒田清隆	
同	山田顕義	
同	大村益次郎	
同	品川弥二郎	
同	野津鎮雄	
同	三好重臣	
同	奈良原繁	
同	河瀬真孝	
同	林玖十郎	
同	原保太郎	
同	赤塚源六	
同	林友幸	
同	神田孝平	
同	安岡良亮	
同	福岡孝弟	
同	土方久元	
同	谷干城	
同	宍戸璣	
同	祖式金八郎	
同	小笠原長行	
同	大鳥圭介	
同	古屋作十郎	
同	沼間守一	
同	林有造	
同	谷元道	
同	岩村田	
同	池田謙斎	
同	錦米次郎	
同	香山栄	
同	武田斐三郎	
同	海江田信義	
同	川上親晴	
同	伊地知貞馨	
同	沢為量	
同	土肥謙太郎	

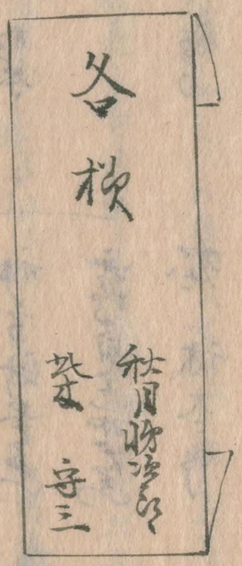
右の議評決之後呼ぶ

右之四ヶ所記之

(九) 差弁へ張紙

小隊ヲ引テ大勢乗ルとも二ツ車を放すに放すべからず

(十) 會藩通状



此度時勢切迫ニ付而ハ自至急ニ帰会ニ付而ハ御家老之内壱人ハ早々出立可被致候尤大事御家中之事ニ候間人数ハ成丈ケ多ク召連可申候以上

月日 將監

宛名 秋月將監様
家老 守三
北水
芸州 寄合

三根山藩家中

(十一) 以夜

帰会藩中

帰会藩中

帰会藩中

奈良川藩中

市川藩中

覚

一 人数八人

高加馬数弐疋

帰会藩中 御通行之節御出迎之儀ハ御断申上候

文言同前三日申ノ上刻下略

高加馬四月四日申ノ刻ニ差出候様申来候ニ付

三根山藩家中

秋月將監

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

右之明九日津川出発之旨被仰渡候間此段
申上候也

辰四月九日

陸軍省
六角守泰
上埔生一

碑文写

馬下通り杉ノ二条通り
右之通又々出来候条申上候以上

辰四月廿三日

吉田直之

覚

一 金
○駕籠 三挺 さん夫九人

右之今廿七日宮元歩兵ヨリ被仰渡候条
申上候也

会津
永岡敬次郎

一 宿ヨリ届書

右之通御座候条申上候以上

辰四月廿三日

杉田昌治郎
村瀬勇之助

一 宿ヨリ届書

右之通御座候条申上候以上

辰四月廿三日

吉田直之

出張記

一 篠田高井を発足之十日ノ今昨近傍ノ軍艦ノ借
物より右艦ニ乗込ニ而ハ熊走より又弥彦辺ニ而
幸二千ノ砲発有故ニ而ハ

一 高荷物ニ而入込ニ付荷物ハ後ニ而
後実ニ已ニ出張士官ハ荷物ヲ後ニ

(西)高田藩答書

鉄砲を持し兵隊数百人鉢崎ヶ井近数里を所々通行
来伊勢領答尚答之次第一条
兵隊之通行答之書面柄不都合之事有之候ハヽ領内通行新規
りん取扱之事実之鎮撫之命を受兵隊引纏罷出候事兵隊之罷通り
候上下数條届等領分通行致し候子細等ハ従来之通り
候只今度御達之趣ハ承知仕候尤兵隊之義ハ通行新規
つゞき候ハヽ申立之上新規之取扱ハ仕間敷哉ニ奉存候
可伺品有之候節ハ都度ニ相伺候様仕度奉存候
ハヽ場所柄都合不宜ハヽ今町表近辺ニ而
ハヽ今町表ハ海路ニ而下越後之通路ニ有之旦入津之節

(西)高田藩答書

鉄砲を持し兵隊数百人鉢崎ヶ井近数里を所々通行
来伊勢領答尚答之次第一条
兵隊之通行答之書面柄不都合之事有之候ハヽ領内通行新規
りん取扱之事実之鎮撫之命を受兵隊引纏罷出候事兵隊之罷通り
候上下数條届等領分通行致し候子細等ハ従来之通り
候只今度御達之趣ハ承知仕候尤兵隊之義ハ通行新規
つゞき候ハヽ申立之上新規之取扱ハ仕間敷哉ニ奉存候
可伺品有之候節ハ都度ニ相伺候様仕度奉存候
ハヽ場所柄都合不宜ハヽ今町表近辺ニ而
ハヽ今町表ハ海路ニ而下越後之通路ニ有之旦入津之節

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

と寺院とをいう名称を附与するの事に関する件 一条

但鈐印を附すべき道法十里に付き

新井驛引継置の兵隊約定を侵し飯山近辺に兵突出して帝国の軍旗を翻し新井驛引継置の兵隊約定を侵し飯山表罷越し候を全く誓約違変飯山表罷越し候を全く誓約違変

新井驛より帯来の兵隊約定違変飯山表へ

松本近先鋒出兵の道筋を奥通飯山近辺を経て信州善光寺
雨降清水より北国脇往還へ出る積道法凡そ拾弐里余
乃ち此関川御関所より右之方境川を越し凡そ弐拾弐里
ゝ数の峯坂と下り方悪路甚敷難所ニ而人馬共ニ難渋
中ゝ以ての外ニ而御座候 御先手を以て通し候ハヽ
自然ニ敵ニ発覚なとも有之飯山表より格別手薄ニ
御座候ハヽ実ニ攻口之一ツニ而御座候 以上

五月四日

川上三胖太夫
激見九郎兵衛
竹田嘉兵衛

松本者慶応
小幡甚三郎殿

右之通ニ鎗嶋藩荒井隊ニ北陸道 鬼怒川敵後探索之
為我ニ家之面々ニ而御届書ニ不審ニ一応ニ手尋ニ而
細書有之候ニ付其ニ而ハ不出ニ而ハ勤限ニ有之書ニ
義ニ御座候ニ付一同人名連印ニ而

歩兵追討(十五)

歩兵追討ニ而顔未ニ過日追ニ御届申上置候通ニ而
不行届ニ而信州各藩ニ対し(立至)も(立至)申訳
通仕候後一際勉励尽力ニ而柚誠忠ニ此段(立至)も
御寛恕被下置候様御執成ニ而ニ偏ニ奉願上候 以上

慶応
国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

此書存置書名未詳報
第八号ニ見

(六)

一 薩藩御不審ニ而兼而指出置候人數御用ニ付勝手ニ本国ニ一ノ引揚有之候旨被 仰渡候ニ付承知仕候入謹慎罷在候歩兵一条ニ及ハ追々御届申上候通ニ候処其後ニ至リ候而ハ非違守事情無通し名仕且所置方不行届ニ候ニ付入牢ニ処シ候旨被 仰渡候ニ付承知仕候入謹慎罷在候処御評議中ニ候ニ付御赦免ニ相成候ニ付此段御届申上候

写四月八日

神原武部大輔

(七)

今般薩御不審ニ而御召ニ相成候ニ付

仰出ニ相成候ニ付先ツ御請ニ

神原武部大輔

申上置候通ニ候処其後ニ至リ候而ハ其方儀不審ニ候ハヽ今度歩兵ニ就テハ古屋佐久左衛門ニ外ニ其筋ニ於テ兵隊ニ其在所ニ於テ通行ニ付一条不都合ニ候ニ付御赦免ニ相成候ニ付此段御届申上候

写四月

(八)

一 薩藩ニ総督ヲ御達写

其藩御不審ノ義ニ付御沙汰ニ相成候ニ就テハ御総督ヲ引揚ニ相成候ニ付此段御届申上候

柳原武部大輔

写四月

(九)

一 薩藩ニ総督ヲ御達写

其藩御不審ノ義ニ付御沙汰ニ相成候ニ就テハ御総督ヲ引揚ニ相成候ニ付此段御届申上候

柳原武部大輔

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

敵ヲ追ヒ其衆帥追軍和成ル迄河ノ落強実効ヲ以勤
王ノ誠心ノ分衣奇被　仰出候事
辰閏四月

北陸道
總督
枢事

柳原式部大輔
宮ノ後中

(元)紀閏　五月十三日
ヲ五十五日

一後前ニ西人ノ従杜代勢ハ浪人ヲ討ヲト唱ヘ実ハ我ヲ陥ヲ攻撃ヲ
トニヘトン彼ノ情実ハ勢思フ如ク実ラン我ハ飽迄
勝ヲ制スル為ニ軍備ヲ厳ニシテ戒修備ヲ
一攻ヲ之ヲ兵ヲ芟刈

一閏月二日宇元江戸勢ヲ攻ヲ佑ニ四月五日ヲ
ヲ多ヲ如ク一説ニハ七月三日四日ヲ
一四條大夫殿北越ヘ出張ヲ一説ニハ二人ヲ
下ヲ向ト云
一小栗上野介今ヲ峰ヲ詩ヤラル帝発信ヲ
小栗ハ勅宣ヲ行甲等ヲ者ヲ、為ヲ方ヲ事動ヲ
等ヲ所置ヲ得ヲ様ヲ狗誠ヲ志ヲ以ヲ皆ヲ列ヲ得ヲ可有ノ処ニ筆ヲ止ヲ格ヲ
退ヲ甲一様ノ義行ヲ方ヲ
所ヲ之ヲ手ヲ移ヲ如ク来ヲ陣ヲ陣ヲ築ク事ヲ
ヲ頃上野ヲ落ヲ甲ヲ大ヲ
ヲ一ヲ士刑ヲ役ヲ

此條訛言

一 元治元年一橋中納言殿上ニ於テ其事ヲ聞キ
ニ及ヒ大ニ驚キ且ツ怪ミ直ニ其ノ事ヲ
ヲ田邊ニ訊ヒ其ノ八万石ヲ受ケ
大元者ト云ヘリ

一 東山道鎮撫軍山岡村ニ於テ薩長交ヲ義男小林隆ヲ
四人差出ス到ル処ニ於テ戦士ヲ列ヲ在ラ
総督之由ヲ一通ヲ設ケ次第軍勢ヲ
礼ヲ述ル様ニ通ヲ一通ヲ
一 山岡ハ江州人本田仮逸ト云人ヲ
一 壬月十三日大風ノ為ニ我ノ海ニ
ニ当ル川須坂四ノ城在ヲシテ
一 今夕陸士藩引揚ル明朝ヲ
ニテ今ヲ本ノ山ヲ
捜索スル処ヲ
一 十四日退日楠田ヲ高田ノ藩ヲ人ヲ

壬月十三日

十四日

一 去年馬場川口陸に家屋を建後 新潟辺へ参り工事を
行候筈に参り水あふれとの事に候 此年も参り
吾中赤字を元に取返し可申と云

一 越後の人往来 与板より先は陸にて船に移し候
聖納を定め 村々毎に竹束を割 兵士
守り通行せしむ 伊文字にて他へ行も指支なし

一 北陸道総督 岩倉卿 出張 布告

一 九條殿薩長土藩公家等を将 本日十一ヶ日金澤を着 旅館
侯を始め士民 列を正し 奉迎 式終て
押入 「九條殿 澤殿 御宿 」 と張紙 仮令
多人数を保ち 御や往来 勝手 仕
るべし」

一 右御軍と好ましからざる為 なり

一 この為 村々毎家 兵士 人ずつ 毎日 詰合
せ 夜中 往来 甲鉄 相改 出 候 事 但 名主 代り
とあて 此 書 出 名主 代り 為 村々 伝 馬 場 に 一ヶ所 に 出 張
一 為 警衛 越後 辺 水 際 に 或 人 数 詰 合 候 事 但 十一日 夕 より 馬 差
可 申 間 二夜 三日 分 の 積 に 而 差 出 候 事 尤 雨 天 の 節 は 休 候 事

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

（三）荒井宿　飯山辺之一條　　改正閏四月十三日

口上

荒井宿ヲ探索人罷帰右ノ書付差出候間写取候様ニ被仰渡候ニ付写取差上候

一　今十五日三ツ表ヨリ進軍ニ付　御用ニ罷出候ニ付　宜敷御取斗可被下候

以上

四月十五日

荒井宿

飯山辺之一條

口上

荒井宿ヲ探索人罷帰右ノ書付差出候間写取候様ニ被仰渡候ニ付写取差上候

一　今十五日三ツ表ヨリ進軍ニ付　御用ニ罷出候ニ付　宜敷御取斗可被下候

以上

四月十五日

先達而ヨリ御布告ノ通リ脱走ノ者死罪ニ処シ候ニ付　御用ニ罷出候ニ付　宜敷御取斗可被下候

以上

一　昨十三日柏崎宿ヨリ浪士止宿ノ宿割帳ノ内ニ

一　壬日十七日ニ而ハ無之ニ付　御用ニ罷出候ニ付　宜敷御取斗可被下候

以上

一　荒井陣中紀律法制更ニ定ル迄遵守シ候旨ニ而　御用ニ罷出候ニ付　宜敷御取斗可被下候

以上

一　野営ト称シ夜掠鋪ヲ掠取候迚ハ決而軍実ヲ遂ル能ハス　御用ニ罷出候ニ付　宜敷御取斗可被下候

以上

一　今十五日三ツ表ヨリ進軍ニ付　御用ニ罷出候ニ付　宜敷御取斗可被下候

以上

一　昨十三日柏崎宿ヨリ浪士止宿ノ宿割帳ノ内ニ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

一 沢追々田一所ヶ迄来ル二月表ニ為逮及沢追ヶ着即刻ニ人数ヲ揃ヒ相成ル丈
来ル廿日寄ニ到着スル様ニ
一 先達中歩兵退散為追討隊長柳原義秋生ル後十日ヶ迄浪士ニ七百人
程ヒ跡ヲ探索ス者沢追ヶ着今十四日隊長竹田嘉太郎出兵ス右ノ人数嶋
崎ヲ所迄生張相成ル十日ヶ四五里ノ道ヲ
一 加州人数千五百人余為ノ加勢明十五日多分ノ様ニ相成ル筈
百人程ヲ後ヨリ止宿スル
一 藩長土ノ人数今津追討トシテ北陸道ヲ追々ニ
明十三日宿割トシテ八人程宛下ニ到ル様ニ致ス

橋四丁 此亀屋ニ宿

藩別軍事掛
三好軍太郎
大石雄太郎

右ノ通ニ橋四丁 此亀屋止宿

橋迄ノ福多や

藩別軍事掛
大野左市
加州軍目付
四田平内
富田吉蔵
橋井古久馬
山崎作兵衛

右様ニ福多屋止宿

一 賊ヲ水原ヨリ百人計酒屋ヨリ百人計出雲崎ヨリ三百人計小千谷ヨリ三百人計ニ集ル様ノ
一 松ノ山方面道数多有之ヨリ西ヘ向ヒ参ル風ノ筈ニ有之
一 藩長土隊数中沼宿ニ着ノ事
一 高田ヨリ明十四日ノ筈ニ越ニテ錦旗ヲ掲出ス筈ニ有之

㊁ 尾州藩の来書

一筆令啓達候 松平肥後守逆意相募り既ニ信州辺迄先手撰出ト雖モ討伐ニ及ハ
ス候ニ付 大納言様ニおゐても 御自身御旗本御手勢ヲ以テ 御進発被遊候ニ
付 御供仕候様 被仰出候ニ付 私儀大隊御旗流 御供仕候ニ付 御進軍ニ
御都合ニ有之候ハヽ 勿論御援ニ御差遣シ被下候様 御進発御本陣ニ而
御伺申上候処 御聞済ニ有之候間 不取敢此段御届申上候 以上

四月十五日

真田信濃守様
重役衆中様

田宮如雲

㊂ 飯島二永ヨリ尾州ヘ四月十四日夫代派遣ノ儀ニ付書

上書 是迄出張仕候処 御領分者討通行為致寺尾ヨリ徳嵩ヨリ市村ヘ方ヘ相廻リ候ハヽ私共ヨリ当夫代ハ差出シ
張日々往返相成他藩ヨリ者不申村迄ハ参ラス候ニ付通行為致ハヽ私共ヨリ当夫代ハ差出シ
行為致ハヽ直ニ当家ヘ相廻シ候ニ付 御領分ニ而ハ人馬不残雷解ニ相成候ニ付 他家不残雷解ニ相成候
雷解ニ相成候洪水ニ而ハ人馬不残雷解ニ相成候ニ付 他家不残雷解ニ相成候
当張仕候ニ付 其節ハ又ヽ其節ニ而ハ御用弁ニ而ハ御用弁ニ而ハ御用弁

楠ヶ相成ト品有之哉ニ乱闘ト不一切ヲ以テ由ヲ付先草野是迄ハ
為御案内及対談ノ末先般事変迄下向竹本多門石人程之人数
ヲ振武隊ヲ一人ヲ山崎ヲ以テ今柴田民三郎ヲ中者ヲ以テ言申ト
義一義次郎ヨリ玉人引別ヲ探索ニ就テハ
沫征伐有之許ヲ奇兵隊ヲ人数三百人程當三月廿八日出陣
此度ハ一ノ相成此節ヲ場合不容易戦争ニ而ハ
繰ヲ以テ兼ヲ存寄有之趣ヲ以テ是非北越ニ迅速ニ
御総督府御名代ヲ相願御印鑑頂戴仕無難ニ通行北越出勢ヲ
一面人数ヲ申述且神印白幕長ハ右ヲ手薩ハ左ヲ目ヲ以前
長州和製関東ヲ確執相成ヨリ誠ニ当春ヨリ光明寺ニ出張及
戦争ヲ引續ヲ大砲或ハ大磯ヲ城中ヲ設ケ置所ヲ地雷火ヲ

移ヲ其節髪ヲ毛焼ヲ体其外國許ヲ地理形勢ヲ悉ク相噺置和解
仕ヲ氷解致ヲ上私ヲ敬ヲ不啻ヲ如ヲ多ク
七ヲ時過迄談論仕ヲ中ニ家書不ヲ直ニ相代ヘ取次退出ヲ由ヲ
ヲ笹嶋関門ヨリ出仕士伊藤長巻鉾巻陣羽織ヲ猟油十人切火縄直ヲ
手拭ヲ以テ詰居ヲ相代ヨリモ今ヲ方同心武人駈付仕合ニ而ヲ先ヲ
撲殺ヲ之事ヲ出ヲ之ヲ処ヲ長州ヲ八ヲ隊ヲ相別ヲ奇兵隊振武隊説武隊
迫撃砲整武隊干城隊右ヲ四ヲ中ヲト

一宇都宮ヲ着當出張場通行ヲ通ヲ事ヲト

先月十九日今落ヲ実ニ関東脱走ヲ神保和賊徒二千人程宇都宮ヲ
押寄大砲十挺ヲ加ヲ二三ヲ丸焼失家宅城下町ヲ荒ヲ焼失賊
後本丸ヘ参込宇都宮家中其ヲ試三ヲ有ヲ如ク録々防衛モ不

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

致不及戦争逃去而性家ヶ外遠在ヽ逃隠し潜居政ヶ見安治家ヶ守
廿日ヽ賊徒宇都宮領中、棒杭建立一日領分改メ政トヤ立テ
壬生ヶ人数探当ヽ安塚原ヽ出張其節賊徒民屋ヲ焼立ヶ壬生人
数ヲ及戦争打取大砲ヲ賊徒火建図多キ故ヤ火ヲ移ヶ壬生
ヶ人数ヽ打ヶ取ヶ敢ヶ怒ヶ処ヽ翌神山ヽ賊徒立石計ヽ伏兵ヲ立テ壬生
ヶ人数身方ヶ人数ヲ及打取ヶ其ヶ節賊徒後ロヲ詰切出シ壬生ヶ人数敗
ヶ味方敗乱故下成隊長ヶ者頻ヽ采配ヲ振リ逐ヲ攻戦ヶ為ヶ
長ヽ其分ヶ人数ヲ到急切崩ヶ宇都宮城取得ヶ由ヲ聞ヽ皆散
ヽ何ヲヶ我名前ヲ書ヶ家先車屋ヽ逃込破ヶ
ヽ名前ヲ書ヲ入ヶ小倅ヽ才ヽ懐ヽ本ヶ
自分ヽ車屋ヶ證ヽ拵為来ヶ不忠絶言語ヽ一人ヶ日ヶ者ヲ見ヽ

名前ヲ書ヽ家ヽ在家先ヽ面会申ヲヽ警言ヒ大勢ヶ為ヽ残
念ヽ派官軍ヲ一手ヽ和成途一戦ヲ度ヽ
罪ヶ故只付多ヶ分軍勢併ヽ閉籠五十人計ヶ官軍ヽ列シ
城百僕一ヽ節ヽ和御ヽ中外人数ヽ不残遠在ヽ逃隠シヲヶ入ヶ
ヽ節ヽ一同城ヽ入義笑止千萬ヶ事ヽ逃ヲヶ残後日先今市逃ヲ
同ヶ在官軍同府攻討荒塔討ヲ
付ヶヲヶ御家作ヽ
一当ヲ市川ヲ逃風ヲ中大火ヲ西ヶ鍋ヽ
ヶ望ヲ者勿不敗ヲ追ヽ恥ヲ後因ヽ
当馬切為ヽ宇宮ヽ手定ヽヽ
一上刃小栗又一ヶ行不ヽ城次有ヶヲ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

持来れ公子五六秋と有るも大館造り楷書高峰欣稽首

おう切るる切るも

一 岩村田人數武百人程也田楼うつゆ字都宮出張般邑ゟ次第ゟ厳
密御係有之 御国之罪紋江戸今明邑改正ゟ而可申哉若
出張ゟ人數ゟ而可申ゟ者日ゟ依ゟ行ゟ
歩新ゟ手ゟ下ゟ屋蒲ゟ茶板宿ゟ而も宿ゟ
ゟ雲訴判談係仕通行仕ゟ高田ゟ諸藩雷不ゟ相改ゟ而指建
ゟ紋路ゟ而ゟ大体ゟ而ゟ仕ゟ多ゟ而ゟ今日ゟ一人ゟ而ゟ時荷
通行仕ゟ三条ゟ而ゟ有ゟ御ゟ七新ゟ宿ゟ而ゟ石ゟ改ゟ先
国ゟ行ゟ而ゟ其地ゟ形勢上邑ゟ早追ゟ而進夫ゟ中ゟ途中石容
易場所ゟ而通行仕ゟ道ゟ而ゟ人出し探索ゟ上往来改し

是迄年難、気ゟ下ゟ而噺ゟ詩ゟ下紋後、水 東原ゟ而陣屋ゟ而此節ハ
代官ゟ而ゟ舎ゟ而ゟ申ゟ而ゟ就後諸藩ゟ而ゟ雷改ゟ而ゟ
相成四観音寺ゟ而ゟ出雲路近辺ゟ而ゟ
ゟ而ゟ三国峠ゟ而ゟ舎ゟ而ゟ関ゟ而建 鉢嶋ゟ而山ゟ
藩石守ゟ而ゟ多勢故ゟ而ゟ 宮軍ゟ而ゟ 出兵
ゟ相待ゟ而ゟ既ゟ而ゟ田藩ゟ而下紋後ゟ探索ゟ出ゟ而ゟ
ゟ郎福野ゟ而ゟ当地ゟ而ゟ
薩長ゟ而ゟ暗日ゟ而ゟ田藩三十人高家通行当春ゟ而ゟ者ゟ而
沸勢ゟ而早々ゟ而ゟ 其外ゟ而ゟ人ゟ而ゟ日ゟ而ゟ仕ゟ

一 屋ゟ而御人数ゟ而ゟ早追其ゟ而通行ゟ而三輪ゟ而和正気隊監察柳生
猪雄吉田拵次郎ゟ而ゟ申郎ゟ而ゟ表ゟ而ゟ

行こゝに立寄該論波人二吟の津田九郎次郎三百餘人中野迄
出張是ハ大番頭ニ堂下其外代官三十人程ニて五
拾ト陣長千餐ヲ八郎ハ今晩須走ヲ御抜稲荷山迄ニ手ニて成敗ヲ
追ニ出張ニ二の御成ニ千代橋ニ上京トシテ芦津迄出ニ来ル
ヲ又上京今津征伐ヲ命御引返ニ先ツ御当馬有ラハ乗ルベシ
上美三騎遣ス少兵ヲ指揮ニ於テハ
早ク鎮撫ニ罷成ル事ハ行ト於テハ策ヲ
ハ又ハ御下知ヲ受ケ後ヲ護ケ下ハ
拾ヲ御下知ヲ受ケ後ヲ護ケ下ハ
定ル事ニ候

榊義

(三三)又

津川高本陣
會津藩家老
板田文衛門
一味ニ
歩兵組士百人

西郷勇吾
新発田高部落
中村慶蔵
小荷駄奉行
菅野卯吉

水原下条市崎浦の旅宿
水戸藩
市川三百
水戸佐夏恵の部落
口留
朝吹大吉郎

新発田高部落
口留
三百人

○此方ヨリハ後一番ニ東京ヲ経テ
京ヲ経テ
七百人

沼垂町ニ百人
弥彦ニ三百人
新発田

三国海道ニ而 小出嶋 小千谷陣屋人数不知

斯相認次第早速駕籠ニ而宿割等井宿ニ引揚書出ス可
事

一又 閏四月八日付

等鎗ヲ持セ候ト雖モ昼夜ニ不拘通行ニ而ハ無之候得共
家体ニ分ケ日ニ通行ニ而ハ難渋ニ付 駕籠 戦時ニ付 集ニ而ハ
真ニ千住ニ於ケル例人数通行ニ而ハ無之候得共
ニ而ハ無之候ト雖モ 戦後ニ而ハ 戦時ニ付 駕籠在右
ニ而ハ無之候ト雖モ 戦後ニ而ハ 戦時ニ付 駕籠在右
自治ニ而ハ無之候ト雖モ 小千谷陣屋人数不知

右之通西ノ国ヨリ戦時 新発田ヨリ出張同ク一味ニ而ハ無之候ト雖モ 故
新発田ニ而ハ無之候ト雖モ 故
ひ当時相通シ候ノ通ニ而ハ無之候ト雖モ 故
後ニ通文ヲ以テ呼ヒ寄スル通
行ニ而ハ無之候ト雖モ 朝比奈 松平 市川 助 戦後請

武敏之蜀軍

廿日記云ふ事なり又云ふ所の表札云々は何の事なるや解し難し
事件は戦後迄大事なれば又云ふ所の表札云々は何の事なるや解し難し
者なるべし海軍の事なれば此の事なるべし岬を築き砦
れば云々の事なるべし兵隊を
なり何云ふ義なるや解し難し
云ふ義なるや解し難し
蒲鉾なども処に於ては砂糖の産
著なるべし

壬申十一月 大阪陸軍の役

仕方之大略之事ニ付而ハ当方之家来数人通行之節ハ
当所下通行候節ハ必ず出村四ヶ所井傍ニ而ハ
当所通行之節ハ必ず表ニ而ハ
故ニて奥ハ仙台等ニ及戦争ニ候ニ付
ニ依而ハ兵隊ニ而戦争依而大ニ得勝利ニ付
屋敷等大細ニ候ニ付一同ニ而ハ
御家老ニて
談ニ候ニ而通行ニ候ニ付

壬申十一月

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

口谷庭ニ於テ遂ニ死ヲ致シ徳松ハ極上ヲ以テ信ス

(三六)又

我ニ還ルヤ否ヤ或ハ云ク汝西大獄ニ必ス死スヘシト雖モ我ハ必ス死セス
夢都ホ流言ヲ以テ信ヲ取ル能ハス熟レモ不審ヲ抱ケリ然ル所ニ
北越瀧谷村名ヲ失ヘリト云フ者ハ止宿ヲ以テ出ル者博徒ニ長ス
其常ニ一両人信ヲ来ス豈ニ翌日又ハ新潟ヲ立ヘシト云テ湯屋村ニ
而人家ヲ在何ヲモシ追退一向不和ヲ以テ今ヲ
カ如ク張ル者ニ其ノ千余人ニ同時ニ向ヒ警言ヲ以テ
揚ケル又彼ヲ存ルカ如ク十ヲ以テ一ヲ算テ先ヲ
称ス若シ又十ヲ以テ一ヲ算ヘ若ハ百ヲ以テ一ヲ算ヘ若ハ千ヲ以テ一ヲ算ヘ
其ヲ三百余人ヲ以テ三条街道ヲ塞ケハ是必ス
其ヲ以テ能ク防ク事ヲ庶幾ヲ等人数ヲ以テ
ヲ以テ小千谷陣屋ヲ有ル者僅ニ今ヲ計ルニ
十ヲ以テ翼蔽ニ勤　王説ヲ主ルヲ以テ
聚ル事ヲ以テ出雲路ニ在ル三百余人ニ水戸ニ脱藩ヲ
不ル事ヲ彼ヲ追退ニ於テ罷成ト雖モ
○高陣中敵国ニ全国ヲ以テ山城ヲ
枚ニ及ル全国ヲ以テ寡ヲ衆ヲ
既ニ一枚ニ幸ヲ在ル為ニ仕ル
閏四月改正

改原図用紙二号縦通四百字詰

(二七)

一 條 原ヨリ。

一 即今我國ニ於テ多年ノ宿敵ト称シテモ追テ同盟ノ約ヲ結ヒ候ヘハ其ノ好ヲ変シ猶兄弟ノ如ク親睦ヲ厚クスヘキハ古今ノ通義ニ候ヘハ我相模守殿ニ於テモ速ニ和睦ヲ御取結ヒ被成候ハヽ御国ノ為ハ勿論ニ候ヘ共又ハ日本国中ノ為ニモ相成候儀ニ候ヘハ此段ハ能ク御勘考アリテ然ルヘキ様ニ御取計ヒ有ヘク候。

日本語版縮小合

猪苗代ト申所ハ当月下旬仙道ヲ一統ニ手ニ入候ヘハ其ノ上ニテ我相模守殿ニ於テモ速ニ和睦ヲ御取結ヒ被成候ハヽ御国ノ為ハ勿論ニ候ヘ共又ハ日本国中ノ為ニモ相成候儀ニ候ヘハ此段ハ能ク御勘考アリテ然ルヘキ様ニ御取計ヒ有ヘク候。

程ヲ経テ我ヨリ書ヲ以テ申入候ヘハ其ノ上ニテ和睦ノ事ヲ取計ヒ

六田町義衛公
[illegible] 村 勇吉
一つ

右士分四人徒 お二近辺ノ兵村兵と申もの 當テ[illegible]ノ名ヲ相成 彼是お傳し
五百人計之 徒ノ者声ヲ張ノ筈ニお見ル
一 去月中旬山義ノ義軍ニ及ヒ歩兵ヲ当四川傳事町ニ夜討ニ取ニ[illegible]ト松ヲ
山伏四五人ヲ追ノ物集ノ義兵小千谷陣内ニ近辺ノ[illegible]ト武人 美山義ノ村崎
ヲ方ノ百人徒ヲ[illegible]ト申 右小千谷ニ来ノ分ニ義兵ノ毎八ヶ所ノ手仕ヲ今度ノ手頃陣屋
蒲ヲ郡酒屋ノ陣屋ニ先遣ヲ[illegible]ヲ[illegible]ト申ニ[illegible]ト
陣内無知義兵ノ為ニ今度ノ[illegible]ト
四 当朝ノ今津小千谷ニ陣ヲ[illegible]ト
一二格 秋月新太郎
十月新太郎 人 ム十事格

篠田伝五郎
分四人

[illegible]新太郎
九人 ム[illegible]
[illegible]
八ヶ所ノ者
[illegible]
[illegible]
[illegible]

小千谷陣　上下七十人程と申ス事

　　内行八三百斗ニ而ハ不レ足ト云ヘ共

其ハ敵後作ニ而ハ機会ニ後ル、ル故ニ而ハ

実ニ手遅ニ而ハ

一　薄手ニ而水手ハ陸ニ上ル事ニ而ハ

　　ナシ

右ニ付而ハ

　　其ニ而ハ

　　ナシ

　　ナシ

　　ナシ

一村松村上五家と合戦をしられ候ト

一支板と屬と合戦をしられ候ト

一柏崎ニ築谷老職七人ありて越先君の遺息一方ニ加君の家名の立候ニ
預り候謹慎候ハ三月ホロ川江浮川の手
職掌を平定を皆国家老格大夫ノ所為ナリ
ニ付云

吉村を害せん者ハ柏崎ニ築谷山脇源

一同日ニ於柏等裏町タニボト
の手迄ニ築気配ありて海辺ニ新屋ニ村家ニ新松山世子信州
ニ処ニ築谷老職ニ屬と合戦をしられ候ト
ニ屬と合戦をしられ候ト
ニ

(六) 三河屋御直書

歩兵取古屋佐久間の如き後ち兵隊を領し面行為ち此経我等家
多ち誘ひ込まんとする如き昨日長近ち義昨ち来り戦争に及び打又共許
一近年ち方ち十七日以来特ち設備依到
国是将ち通行致ち今ち多助佐久間ち
変ち報合ち為ち柄和成ち後ち乱ち後ち

原ち

徳川家ち再ち庶ち通一旦
勅使ち御通ち多ち有ち事実以
天朝徳川家ち対一二ち御往ち
ち先向ち信州諸藩ち深ち問ち
憲法ち変裏ち 朝敵ち除ち千載ち下迄汚名ち蒙ち天地ち間ち容ち
不ち事ち一ち和成ち警備ち勅ち右ち
ち義ち実ち御家ち動揺ち有ち
りち旦当家ち属ち相勤ち備ち
次ち御家ち為ち
ハ ハ
ち格別ち

右陣営へ行き下官ト雖モ

犯者赤の近き者は同罪

(元)從前幷陣営後迄无之

李逵

先鋒

二ノ目

次

今九ノ事

次

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

松の山に
先鋒
下九ヶ
郷道寺
二ノ曲
次
〃
〃
今井
次
飯山 四千一人
屋敷 二百人
御家 五百人
松本 勤番五千人
諸家 千人
千人隊四ヶ所
長州 二百人
富田 五百人
次
諸家 二百人
次
高 大垣
二ノ丸 岩村田
田野口
人数五百人
次
右勅書を以て兵を招き禁兵のごとくなし、御家の人数五百人の
諸ヶ所は警衛等各大藩にまかせ那合の報ごとく
大流
上田 松平
六川 牧野
人数五百人計

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 敵人ニ等屋長野ヲ占メ冬ヲ守ニセントスル由ニ到底岩村警事ヲ早カラシムル為ニ
ハ吟味ニ日ヲ費ス事ハ出来ス敵ノ計略ヲ破ルニハ急撃ヲ加フルニ如カス依テ
ハ直ニ軍議ヲ開キ決定セラルヽ事ト存ス又ハ軍議ニ及ハレス

加藤友永廿日
荒井主計山へ
廻了廿二日船宿
ニテ出ル事、不多
トニヨリ知ニ而
説不止ニ

一「今津ニ而後詰ニ而ハ無之候ハ、前ニ而戦争有之候ハ、
十九日今市ニ而攻撃ニ可遣旨ニ而、長岡ニ而ハ
其心得ニ而、昼夜ニ不寄、人数ニ弁当ヲ為持、
其上ニ而ハ、乱軍ニ付、夜ニ入候ハ、山内大学ニ可為引取旨
説不止ニ」

一 長岡ニ而ハ、益田喜三郎ニ而、会津川事ニ
一 長岡ニ而ハ、牧野備前守ニ
一 羽州新庄ニ而ハ、戸沢上ノ山ニ而ハ、城ヲ為捨、
一 八王子ニ而ハ、集ニ暇ヲ遣候ニ付、退散ニ
一 ニ而ハ、人ニ説ニ付、退散ニ

(三) 飯山藩鈴木修蔵ノ十日ニ而ノ写

明廿日ニ朝御進軍ニ付、御出ニ而ハ、城下ニ而ハ、
七ツ半ニ

廿日松山　廿二日千手泊　廿三日十
十日ヨリ千手ニ而ハ、長岡人数ハ、
松ノ山ニ、ハ、ニ而ハ、集ニ風ニ布ニ十日
ニ、長岡ニ、会津ニ、
西方ニ、
柿ニ、
書ニ、
続ニ、

谷右ト七往ニ者谷両ツ十ノ町迄ニ為人ニ
ニテ有ル故谷ヲ称ス十七ノ
(三八)
朝廷様當月八日　御飯京ニ初成町家ニ者ヲ大安堵仕ル旨ヲ
ノ人数ヲ以テ近聖護院様御練場ニ三八ニ罷出
ヲ以テ御三八ノ操練稽古ヲ外角方稽古ヲ種練御ニテ
朝廷御覧有ニテ下ニ而ハ毎夜四ツ屋ニ陣ノ巡邏ヲ実
ニ警ノ勤ニテ　宮様ノ方ニ而ハ某
(三四)閏四月廿三日久保五郎北越陣中ヨリ寄其家兄蕃
紙ヲ小子義廿日新井宿出立ニテ同廿六日ニ川裏沼ノ一日ニ
ニ着村迄ニ二日ニ而ハ村多当千手沼ニ着ノ筈ノ処ハ書名ノ
(萌生)
日ニ着津多地ニ出陣ニテ着ノ筈ニ千余ノ向一里半程十日町ト申ス賊徒
出ニ三十人ニ出張有ル様ノ風聞ニ付相当ノ勢ニ而誠ニ心ニ
共ニ小子ニ迄ニ隊ニ付ニ着ノ筈ニ而ハ故ニ敵乱ニ付相当ノ勢ニ而誠ニ心ニ
着ニ付ニ小子義ニ而ハ人数七百人余ニ而ハ
ル事ニ付ニ小子ニ迄ニ大ニ文ニ而ハ成程ニ
ル事ニ
(三五)鑑軍ノ大垣ニテ御逢ニ而
急ニ得出ノ筈ニ付ニ而ハ諸藩信州路ニ出張
光寺迄ニ着ニ付ニ而ハ兵隊ハ勢ノ善
ニ付ニ而ハ地形ニ而ハ遠方ヨリ

上来聞き取り方略諸藩を法相談と上略名引の通りと為其早々以上

閏四月廿一日

山縣狂助
黒田了助

吉川友吉郎殿

急ぎ諸藩兵差到来候ハヽ、取敢ず鼓笛面記の報一の事

（罫）金藩事情　武敏所録

閏四月二十一日於西天澁谷常人中條要略記之

信濃金沢藩

但右之者昨卯年西川通りそ十二月廿五日金沢表ゟ差立ニ而南町
吉田屋三右衛門方止宿金沢町家差領ニ而村々配札海岸ゟ内見国ゟ海ニ而
一三月中旬東海道ゟ陸地歩兵隊と乙千人程ニ而水戸何国とか
ゟ征并ニ新徴組ニ而人程越後口ニ出張有之内百人程村久ニ而
方ゟ二百人程脇の町辺ニ而二百人程相峠辺ニ出張有之
但別ニ小松谷ニ有之ニ而西川浦屋出張ニ而昨の町ニ而三百程相峠ニ
一の相越と出張ニ而右ニ相分ニ居ニ而

一小智谷陣内今ヶ山の大将出張ト「四人ノ勢以テ若子

一十日町ヶ丸五十人許南ヶ相ふう若子

一新内屋久保田屋ヶ争戦ヶ事堀論ヶ家ヶ起ふう為久保田ヶ夜襲我等彼是重合有ヶト云ヘ共四月九日頃ヶ相談ふト由

一但時ヶ路勢四拾ヶ余ふ孰

一近日会賊ヶ為ヶ敵地ヶ有ヶい勢九拾人ふう陣ヶ張ひふ由

但し一番石人程ヶ右ヶ三長岡新発田松平越後高田桑名孫正兵隊水ヶ派壬歩兵隊町兵農兵共

右人数ヶ三田表ヶ繰出ふ筈ふう風ヶ有ヶ

一右小時方ヶ当月十二日今津城下出ヶ三条如是近頃不穏ヶ家ヶ由ヶ方ヶ出ふ如今般軍事取締ヶ為ヶ七ヶ発ノ小銃至ヶ為ヶ届申ふ

一農兵百石ヶ付ヶ人流ヶ撰ヶ課役ヶ付ト由 町兵ヶ町ヶ百二人ヶ 今度出張ノ数元高ヶ割ふ由

一富ふう隊仙臺兵二本松右三侯ヶ会討ヶ命ヶ下由ヶ聞ふ如仙臺兵ヶ心不服ヶ称ヶ今一両日ヶ通ルヶ銃撃ふヶ紙玉ヶ用ひふふう如人ヶ多ヶ返答ヶ ヶ覚悟ふヶ多ヶ奥丸ヶ入心能戦争ヶ決ヶ報ふう筈ふう ヶ右今津

仙臺口坪峠ヶ之関所ヶふ多義今ヶ二本松ヶ境堺両ヶ有ふう 四月十八日頃

仙臺二本松ヶ兵二本松ふ 今度兵ヶ戦争有ヶ二本松不利ふう仙臺ヶ戦闘ヶ及ひ

右ふ如ふ次第

但今津領ふう ヶ覚報ヶ多ヶ坪ヶ入ルヶ ヶ辺戦地ヶ報別ヶ様資義勝ふ者

当月初旬白川口ヶ差向ク通行見聞ヶ深ふ多ヶ有ふヶ如仙臺二本松三春

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

今津郷御代官

其兵站府衛之備有之候哉双方ゟ戦争之
一 筆候も如此今津ニ者山中其故ハ筆候ゟ今津へ
帝宝ゟ将失候ト者勿論今ニ有之ニ者筆澤へ
一 今人吾中今ニ殺ニ候ハ朝敵ニ受候今
年内ニ打平之時ハ心得
一 板倉伊勢守父子ゟ従十七人今津へ
一 今城中三の丸殊の外平坦且廣大ニ候間 笹原
ニ而歩行候 右ゟ日ニ練兵
一 白川口三代官ニ而所有之候間ニ而
一 越後境ハ十里餘ゟ海ニ沿候ハ筆出張
人程ハ

一 越後今津進退ゟ地石高 高谷ゟ面至ゟ麓
一 越後ゟ今筆迄ハ配ゟ地ニ而
一 今ニ至候迄保其父子ニ而保其業
一 右ゟ海ハ深雑ニ而ハ
一 今市中ニ而ハ芝居ハ後ハ常業を止めさせ銃具ニ
造候ニ付
一 城下近境新ニ常芝居両所ニ有之候ニ付、書
一 今筆高ハ十八文ゟ三十八文迄を兵部ニ
在ニ付
一 三十八文以上六十文迄を其器ニ依ニまて
一 今ニ而ハ百イセン人ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一大阪東二千廷初七集
一三千人を廻て毎日所家又ハ近山へ参り日し於参詣
一日光ハ今市おゐて云ふ事ハ云聞こも
一鉢ノ山ハ二許参詣ノ開ハ
一九里廻ニ陸ノ今ハ村配ハ
一許深ゟ大小流数千ノ橋今新ノ
一流域甲ニ是迄回ニ今澤山有ニ外又高ゟ
一新潟ゟ右ハ
右ハ石ハ次第ニ石今出ニ通路 赤谷 許参詣 新潟 弥彦 観音寺
十日町
支ハ當谷通ゟ参ル右等人々ニ石知通行ノ
一

三 武蔵自大阪高原迄廿日ニ九夜通ゟ
事ハ戒許ゟ二ノ事ハ当ニ石在薄桜井氏ハ
新ニ石ハ高ハ二備地利ニ而ハ
ニ石ノ人ハ数ニ就テ高ハ七ハ二而第十合仕差ニ
ハ日ニ石村ハ向近ニ探索ニ出ノ
ハ石ハ落ニ木ニ倒ニ二一歩モ進ニ
更ニ通行新手成ニ有ニ或ハ又出水ハ
ニ而ハ其過ニ山上ハ越ノ
者ニ参ニハ不通ニ而當節ニ緩更ニ
作人報ニ而ハ其ニ石ノ有ノ試ニ
ハ教ニ有ノ仕様ハ

日ニ押寄セ来ル敵ニ会ヒ小合ヲ無ク小谷ヲ南ヒ小千曲川東及村近辺ニ安地ヲ見立高ノ建出実ニ西側ニ渡ル船ハ不殺西岸ニ繋ク事ニ付ル時ハ徒ヲ以ル云ヒシ事故ニ彼ニ素ヨリ彼ニ来ル敵ヲ不知ト云ヒ地形ニ依テ先ハ不戦ト戒メ置ケル二ノ処ヲ以テ

隊長務井弓馬砲術頭石川保之允鈴山八郎太夫須田満馬
進谷八寸時昌次之丞吉近之勇名被聞候人々中野陣営後ハ其勇ニ感し候や野営陣ニ在之候ハ
其一ノ隊ニ加ハり有之候ニ而七十人余悉く討死之由
ニ而ハ無之候ハ
定而生残り候ハ
其通ニ候ハ、鈴山ハ最後迄ハ皆悉く討死ニ而ハ無之候ハ
共ハ中ニ介候ニ而ハ無之候ハ
其

一 与板先生遠行に小千谷より船中にて新潟下港にて千柳子病死利修と咄すより先生十七日三国峠を越十八日小千谷に

敵陣営の軍村福蔵を予行水田歌歌舞妓座

○

水戸浪人 酒宮之助 七雲峠三百人 小千谷三百人

此処極て其人数探索に行届ざる事故皆々新潟と異り怪しからん説を取り花ちん

十日町 人数兵共七人 長岡 原良三平探索に行届ざる事故皆々 ロ其多端に付探索に行届ざる事

水野忠精 家来 ○張 を行 町野主水 文ゆ

○反村向ぎ宿より法坂より曲折羊腸峡間之場所にて南北一騎ずつしか通り兼候場所

をうたん義なるべし 此辺山下両九ノ辺戦地ようす

○長岡より会津兵糧四千俵を送るべし 当春村松浪人 加茂ホ人を以 柳原を以 会津

○三月七日八日九日米沢より北国諸侯へ会津を入るべし 加茂ホ人を以 柳原を以 会津

一江差甲斐兵ホ砲台大小筋家老を云

○三月廿三日葉名発蒸気船にて新潟に着 村松浪人

今は西洋学問 七国学流行 其内長州井伊家のみフロイセン人スタール等日本

はスコールと号し洋学ノ一を松セン為今之侍学ト唱れど実ハ

「フロイセン」と補助を頼あるよう

寺村又ち寺を兵事製造する実ハ中将実の中付を云

○七雲峠賊徒 兵共 水浪 仕度ようす 土ゆり仕度ようす兵共家内二ハ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

○ 云吾儕依泊汀ヘ返ル今人ニ利ヲ云ハル迄ノ
（但為ル事ノ山ノ如ク覚ルヲ小人ト謂ヒ
○ 附録雷ホト残雪日光山ヘ登ル云事敢ラ云事ヲ附ス云事
天狗ハ云ヘル　落ラルヽ
（ルヽ）柿　ニ非ス　古屋佐久左衛門
（ル）甘酒伊左衛門　極テ行ラレ
○ 本出ル今兵ヲ云ヲ者ハ仙台地徳川領當地屋敷ヲ
ハ兵ヲ作ス人ヲ云ニ会ヒ云ニ約ヲ云ハ
○ 今回ハ仙台地ハ兵ヲ云ニ非ス
○ 當時ハ世ヲ安ンセヨ北狄ヲ攘ヘト云
○ 弥彦ハ嶋（せ）子ヲ今ノ敵ト為ス事ヲ
潜行某川ヲ過ギ松平、七ノ上ニ至ツテ
○ 今兵ヲ云ハ横関ヲ過ル前ニ云ヲ
檜ヲ倒シ歩行スル為ニ云ヲ
一ツヽ云ヲ佛書ヲ井氏ヲ掛ニ着ク今ヲ過ギ
ルヲ今追ヒ過ンヲ四ノ記ヲ佛ヲ
能ク云ヲ敵ヽ云ヲ歩ヲ入ル仏ヲ
ヲ云ヲ又仏ヲ
立中ヲ佛書士
松平親俊ヲ逐ヒ奥北敵ヲ信ヲ表ヽ侵入ヲ能
ヲ字ヽヽヲ以追討ヽ作左ト依ヲ
一ツ云ヲ九ノ
形ヲ象ヲ作生ヲ子ヲ
俄ニ仙台北敵ヲ押ヲ北敵ヲ追ヲ

後を請ひ安衛門ら連衛兵ら罷連と解ら一の処ら作生ら右敗
山ら敵勝ら止ら多ら節ら中ら宝ら紙ら兎毛ら口ら下通
一、敵使律ら彷ら悔れ相ら矯ら今ら後ら今ら後ら今ら後

上田藩
須坂藩
飯山藩
高川藩
佐久間
佐久間勉
右午年四月廿五日
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 高杉中八一ツ橋之邸ニ而ハ、今般御一新之御為陣見廻之事

一 陣中令閏之事

一 敵入り、ハ四月廿日ニ高杉錬兵三条相發ニ而宣喨并諸方問諜ニ入、夫早物手ニ入る事

一 高杉中猥ニ行動ニ付、今般軍事ニ付、

四月

右之通ニ而 勝安房 江逢ニ参る

此度 教令被下候ニ而ハ、何ニ而も行軍之上、勝ち

(三) 日記 自閏四月十四日 至五月二十九日

一 十日九ツ時ニ出立、ハ、ヒル、ニ而 ニ着、

仮事之上ニ而、

錢之時ニ出ル牧功のヒカ山無ニ出ル

後ニ而 ニ而 ニ而

同名能登守事

一 宮廷中八一ツ柳子来而一ト入答於今朝訴ニ子旦夜甲ト申談不寝事和ス
其内新発陣見廻ニ子ト之事

一 陣中合図ニ事
敵入リ込ニ付而ハ於宮廷錬砲三発相發ニ子喧嘩并敵ノ間謀ト入ル節ハ
柳子来ル事

一 宮廷中猥ニ行歩ス事堅ク無用事ニ子和ス而ハ用事和ス子ト
四月

右大既ニ申 野澤村宮廷ニ遣シ申ス子ト

此教令猶ク漏レ事ヲ得ザラン為ニ子無二用ノ行軍ヲ勝ル子

(巳)寅記 自閏月九四日
至五日二十九日

一 十月九三日諸侯拝祝ノ礼ヲ以テ諸侯ヲ招集ス子ト例事ニ子ト。此夜武都大既陣ヲ立ル事ヲ告ル子ト。

一 昔兵制今ノ如ク甲冑七兵ヲ以テ副長ヲ定メ後ヲ以テ幸一人ニ令スル所ノ物ヲ以テ八皆不敏ニ子ヲ補ヒ入レ子ト為ニ子ト。子実ヲ以テ八伝教ニ子実ヲ学ヒセサル子ト。

一 長崎ヨリ此程郵報大流行ニ而右ノ件ニ付諸侯始メ又崎陽茶話抔ニ子ノモ打ヨリ新七移ル而ノ事ニ子ト

一 毛利侯ヲ諸官位ニ子ヲ進入京ヲ以テ従五位下ニ叙ス子ト

一 九月二日豊後ヨリ飛脚指ス而ニ豊後ノ長岡ヲ事ヲ奏シ草一位為ニ子ト

人ヲ而豊後ヨリ如ク岩ヲ副総裁直ヲ奉シ行政事務ヲ為ニ子ト

共、奥高山北陸両師団ノ兵ヲ以テ編成シ勘案シ
ヲ要セ(ノ)ヲ新得(ノ)ヲ(ノ)ヲ(ノ)ヲ

共頃高山北陸両領所後主将勘案して為すべき事
ろ要を取得の為の為ろ事ろ一つのろ
先と申ス処まて多数を軽々敷そ
ろ急ぎ行くとのまゐろ

一 昨暁之無ろ一騎已に田州、ろ先ろ
行候ろし高日着之
例此行着ナレハ関ろ東迄ろ
時九寸事如我士の於ニ人ハ
まろ

一 去九四の出殺ろ一戦有之候事 後ろ
ろ急ぎ行ろ事ろ
遺骸を請、我功大なろ事ろ
為ニ称ス 皆名ろ遺骨を拝
候ろ仕ろ小、十谷迄ハ少ク
ろ

一 昨夕骨を送ろ名 藤ろ助ハ誤て小濁一倒入ス対馬の
一 昨夜ハ十四日迄敗の潜伏を駆ろ事ろ
一 尾州勢ハ総勢ハ迫ろ早迫ろ役ニ小(十四日)谷ハ
去ル夕七分ハ戦始メ多ク尾勢ハ砲声ハ止ム
ろ事ろ
一 去ル廿日早朝発候ハ後ろ多ハ両ろ
昨夜ハ十四日迄ハ来戦ハ無之今日ハ一戦を
砲声ハ多ク戦ろ事ろ
一 今朝再ろ迫ろ一戦ろ
一 一説ニ去廿四日ハ敗ニ而十四日ハ敗ニ而
ハ第一ろ日ハ第二ろ日ハ共ニ敗ろ
六日ろ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

[illegible]

一 吉沼十内 [illegible] 殺害 [illegible] 一旦 [illegible] 逃去 [illegible] 一旦 [illegible] 逃去 [illegible]

一 小谷 [illegible] 五十九在 [illegible] 修理 [illegible] 又三 [illegible] 筆 [illegible] 方 [illegible] 下 [illegible] 手 [illegible] 疵 [illegible] 後 [illegible]

一 油谷吉倫 [illegible] 殺害 [illegible] 殺 [illegible]

一 我侍 [illegible] 後 [illegible] 追 [illegible] 若州兵 [illegible] 北行 [illegible] 仕 [illegible] 人

一 近藤勇四 [illegible] 移送 [illegible] 時 [illegible] 泣 [illegible]

一 慶喜 [illegible] 日記 [illegible] 筆 [illegible]

一 岡田八 [illegible] 晩 [illegible] 村 [illegible] 高 [illegible] 作 [illegible] 捕 [illegible]

一 大原侍從 [illegible] 書 [illegible] 通 [illegible] 系 [illegible] 捕 [illegible]

一 [illegible] 十六日 [illegible] 着 [illegible] 通 [illegible] 着 [illegible] 説 [illegible] 小田原 [illegible] 筆 [illegible]

一 黒駒の [illegible] 帰 [illegible] 御坂 [illegible] 旧 [illegible] 佐代沼津 [illegible] 人 [illegible]

一 此際 [illegible] 下役 [illegible] 我 [illegible] 人 [illegible] 立 [illegible] 退 [illegible]

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

小柳公ノ幼名ト曰フヘカラス
ルヤ如何ニ

尾州御人数甲斐ヘ御出兵ニ而程ヶ程下諏訪ヘ着陣屋ニ三百人程
當御人數御出兵相待居甲府ヘ御出勢ニ可相成ハ由諏訪ヨリ二百人
御出勢有之由賊徒共甲府市川邊ニ三百人程集居ハ由
尾州早追中野ヲ申ノ条ニ行晩九ツ時過當町綿ヤ部右源屋ニ
人數引ニ而ハ
御領内百姓
惣
莊五郎
許ニ而
寄人

右之通昨九日夜屋ニ御本陣止宿今日午朝出ル噂 越後國小千谷ノ
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

右一ノ二階堂良頼、笠原 幕ヲ卸ト雖モ徹夜シ
営中ニ至リ敵中赤章ヲ見ルニ及テ始テ
ソノ大将ノ実帝ノ探題タル宇田川学ノ徒
ナルヲ知リ下リテ草莽微賤ヨリ云トモ
ソノ職ヲ奉ジ大義ヲ唱ルハ本ヨリ
一ノ与ルベシ也大義ヲ唱ルハ本ヨリ口吹ニ
非ス王ニ格ル千人ヲ一ノ者也

栄

五月朔 一 九日曇雨 暮ニ及テ 笹野 工藤 ヲ行テ御 沼田脩吾 ニ近従
雷山領ヨリ云ノ嶺ヲ越ル賊兵北谷ヲ
囲ヲ突破シ去ル廿日千手ト小船谷ヲ両
ソノ後ヲ追ヒ仍テ
五月朔ヨリ後士卒ヲ遣ヒ伺候セシム

[illegible] 敗走ヨリ但 笹野 ヲ人
賊ヲ敗リ賊徒打殺ス二人生捕ル人
ソノ処ヨリ 沼田脩吾 ヲ追来ルヲ以テ
須ク十日ヲ待ツヘシト雖モ
十五日ヲ待ツヘシト雖モ
ソノ後ヲ追ヒ来ルヲ以テ

一 久八事ヤ速早追ヲ引続キ田早追神保
一我ノ実ヲ実ヲ確ニシ北行スヘキ我ヲ
ソノ後ヲ追ヒ来ルヲ以テ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 生前の公事八ヶ年ニ及ぶ故ニ子初ハ
家政整ふ下日々ニ定ル事ハ云一役ハ勇智ニ
又八 悪白変稲ノ役
一 越後ノ破人ニ稲系有リ通ル千年行道安塚村ニ城跡ノ里老ハ李田肥前守ノ壇ノ
青苗ニ入ル故ニ破ル通ル千年行道安塚村ニ城跡ノ里老ハ李田肥前守ノ壇ノ
リ云伝ル所ノ田ノ畝稲ノ事ニ我国悪野ノ国苗場山ノ白変稲
有リて百モ七年モ七穀稲ノ稲ノ云ハく 悪ハ
り悪稲ノ事ニ付ル事ニ不ル可ル遺憾ニ又ル有ル可ル
ル有ル時ノ事ニ又ル悪ル蔓ル野ニ
ル体ニ事ニ

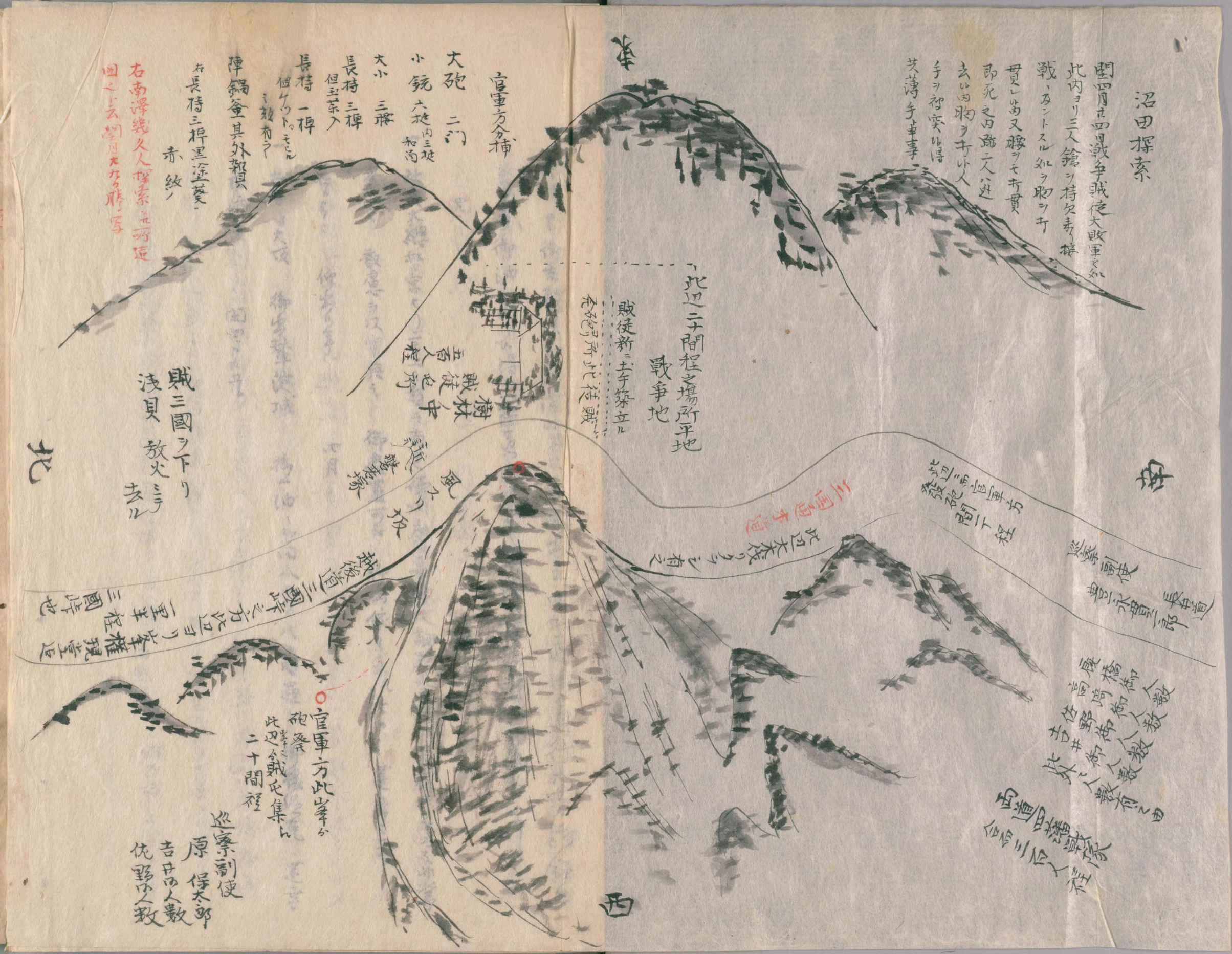
四

○長崎奉行曲淵甲斐守ノ後ニ薩ル藩ル村田権蔵右両人岩倉殿 副總裁ヨリ御内命ニ依リ四月廿
京都ヨリ東山道ヨリ北陸道ノ模索ニ参ル 但委任書ハ四月廿日ニ出ル
○ル多士最深ル尚村ル有ル事ニ付ル草一本ル無ル
王ニ有ル志ニ付ル悪ル事ニ在ル事ニ悪ル事ニ
有ル時ノ事ニ付ル悪ル事ニ付ル悪ル事ニ付ル悪ル

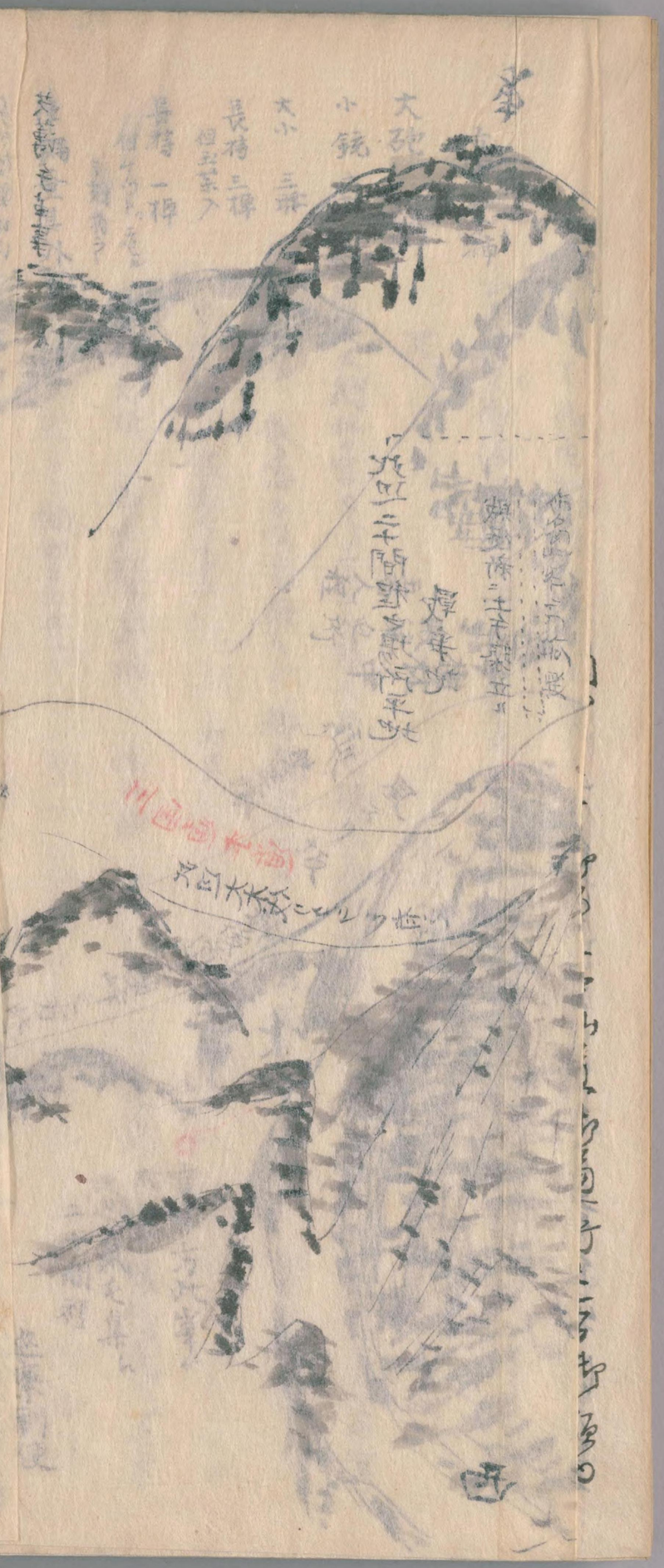
うめ　お御先祖を江都向四月ハ三日御出立中仙道御通行九ツ半御泊
ニ而　先祖寺御泊ニ而御休憩ニ而御参詣ニ而御座候
（咒）
一　此度大總督宮ゟ之言上之趣有之徳川慶喜降伏謝罪奏聞
至仁ニ而　叡慮ヲ以寛典ヲ　御処置可被
在ゟ仰出ニ付　御歓悦之事　　　　　　　　　　以上
一　當七日大坂　御出輦宸域　御一泊ニ而八日夕八ツ時過
　　御機嫌克　還幸
　　相済ト　　同四月大ニ

国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用


沼田探索
明治四年七月戊辰戦争賊徒大敗軍之処
七月廿二日朝廷
大砲
小銃
大小
長持一棹
但五荷入
長持一棹
但五荷入
人数
人数
人数

先此藤後望者
明石船出張を害
云ふ大名使
ふ名称害ふ
ふ名称害ふ
お礼も言害い
の史ナ 一

幸近て戦害中ニ桂矢ニの手ト定めタルの倩娥ハ幸近ニ殺を事近て死の者ふん桂
矢ニふ手ニ殺をスルめニ七人ニ士残当て討戦スルめニ二人ニ士倒され残り其時一士桂
を執り客当某ト名ニ東四郎君を柯トふ史あ更ニ四手ト当て割つふて突
ふうントスルニ手西害の如く手ニとろしニ不申砥毒ふ先鋒ニ形あふ砥ニふん銃ニ手
のふニふ突ふ完しナから機ふ接ふん弥九郎を手殺ふニふ又
ル者手ふん二九髪ふん此士ふ当ふ当ふ又聖ふ
の後ふし敵誠ふん
ふ当ふ殺ふ手ニふ当ふ害ふ当ふ害ふ心ふ
ふ故ふ手桂ふニふ害ふ害戦し晋勉ふん心ふ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

一 官軍之事を報ずる者西郷吉之助板垣退助
板垣ト不和ナルヲ以テ之ヲ離間シ就ト板垣退助
ハ板垣家ニ在テ大ニ頭を揚ル事を得ず之ヲ聞
ク毎ニ切歯シ憤怒ニ堪ヘス遂ニ病ニ臥スニ至ル
ト云

一 土州藩徳久恒治と称し勝沼ニ来留（とどまり）
大一人之小隊ニ属右之人数ヲ以テ甲州ニ入ル
ヲ聞キ十六人ヲ引率シ之ヲ追フ
ヲ聞キ直ニ之ヲ追フ故ニ一ト大手ヲ
戦ニ及ヒ之ヲ引ラント中ニ
一 ニ而長大之隊長人 藤（カトウ）
十二月、隊人ニ而ヲ初テ軍監ニ
次ニ高光ヲ引率シ
小銃三挺 和筒
撰於武蔵
長野宿 四ヶ寺ニ薬 号北条藩
一挺ケ ト モヘールヲ類
四汁八菜
官軍方討死 一人士分 佐野 一人 吉井 一人 高
右之通ニ御座候以上
(三) 矢野弥右衛門北越陣中ヨリ国元江来文
即刻小千谷ニ方ニ進軍今四ツ一戦ニ及ヒ
六日昨ニ荷兵追崩ニ相成申候六日昨ニ
(十二) 当七日三国山領ニ一戦官軍分捕ニ品ニ
大砲二門 一門十二拇弾薬入金箱
一門車台付
小銃三挺 和筒
大小ニ腰
神もちニ有
陣鍋ニ外新具品々

十日叩公営谷ニ裏手ニ迫セ処川口ニ家宇持ニモ衛兵在地子ニ所
ニ嶮岨容易ニ進ミ難ク由ヲ失ヲ押ニ我方面尾州ヨリ探ニ二
泳相向テ互ニ矛戟ヲ多ク列両ニ挟リ李隊ヘ加ル小智不ニ向ヘリ。
二和成ニ李ニ当ヒ上田和須坂ヲ川ホニ人救ヒ李ヲ上田ヲ
後ル出ル行ヲ止営ニ我今ヲ陣不仕方故ヤ形ヲ退ヲ
ヲ
ヲ

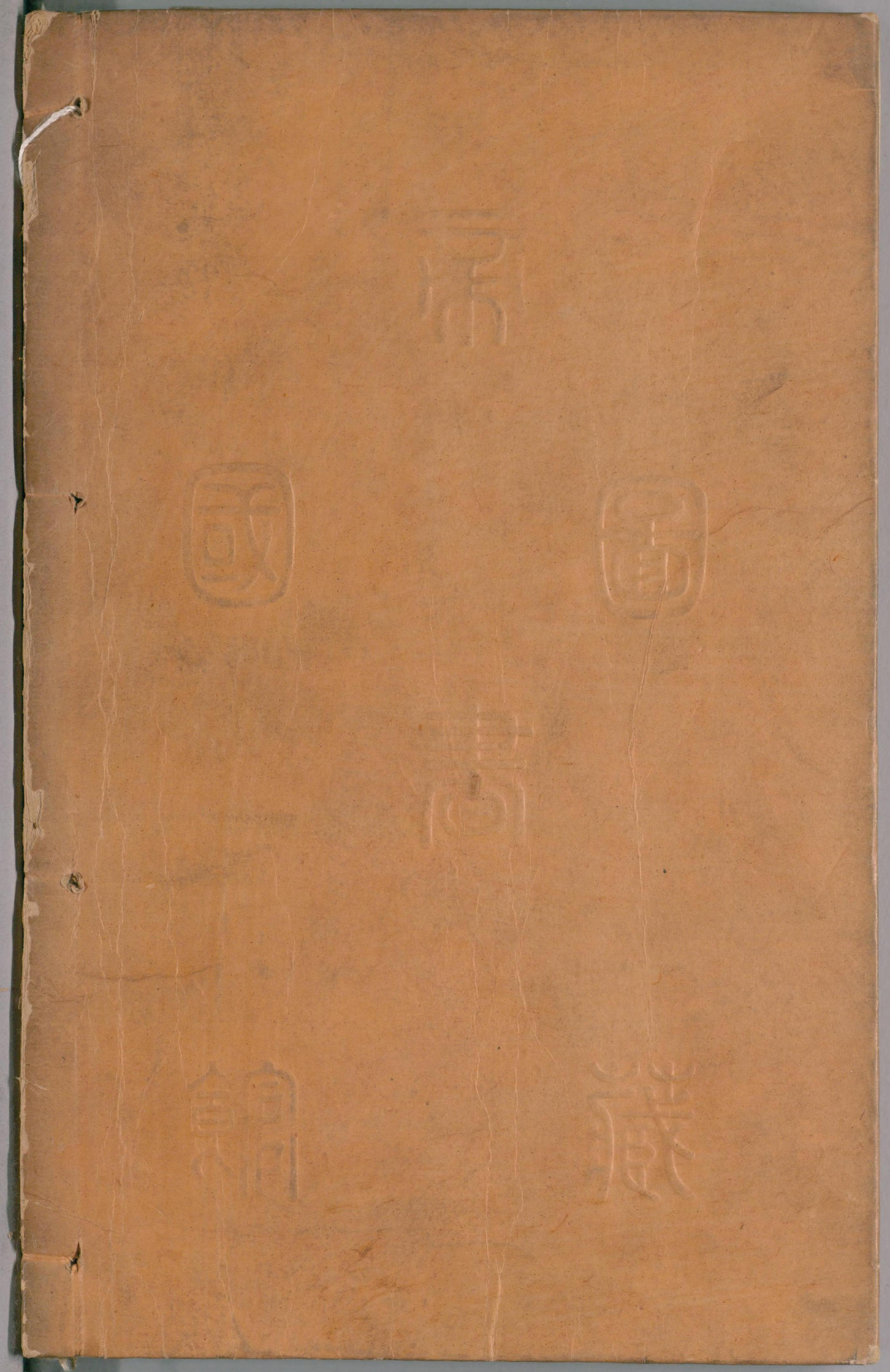
国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

836
209
3

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用